

2007年10月

ガボン共和国



## 安全対策巡回指導実施結果報告書

在外・安全対策グループ

(関口・結城)

## 目次

日程表	1
ガボン地図	2
第 1 治安情勢	3
1 治安状況	3
(1) 政情	3
(2) 一般犯罪	3
(3) 体感治安	4
第 2 JICA 関係者の犯罪被害実態	7
第 3 安全対策推進状況	7
1 事務所の取り組み	7
(1) 安全対策取り組み体制	8
(2) 緊急事態の対策及び通信手段	8
2 大使館との関係	8
3 安全対策クランク	8
第 4 JICA 関係者の住居等点検結果	8
1 点検実施数	8
2 評価基準	9
3 点検結果	9
4 総合評価	9
(1) 各戸の安全点検結果	9
第 5 所見	9
別添 1 ガボンの犯罪被害発生状況	10
別添 2 住居等点検結果	11
1 大木 智子隊員宅	12
2 丸銭 笑子隊員宅	17
3 三木 典依隊員宅	21
4 荻野 芳一隊員宅	24
5 和木明日香、火村絵里奈隊員宅	28
6 永井 慎二隊員宅	35
7 永井 慎二隊員移転候補 A 物件	38
8 永井 慎二隊員移転候補 B 物件	39
9 JICA 事務所	42
10 原田駐在員宅	51
末尾添付資料	
1 安全の手引き（日本大使館廣瀬領事提供）	
2 ガボン国防犯マニュアル、首都危険地帯図（ガボン事務所作成）	

Attachment : Schedule  
 安全対策巡回指導調査団旅程表(ガボン)

	日付	時間	移動予定	活動内容	宿泊地	備考
1	7月18日 水	11:10 16:40	成田発 パリ着		パリ	JL405
2	7月19日 木	10:55 16:35 18:00	パリ発 リーブルビル着	出迎え(公用車) 事務所打合せ ホテルチェックイン	リーブルビル HOTEL MONT DE CRISTAL TEL:241-72-02-83	AF976 担当:長谷川VC
	7月20日 金	9:30 10:30 14:30 18:00	リーブルビル	大使館(領事)表敬、情報収集 警察署(憲兵隊)での情報収集、市街地視察 隊員住居点検(三木隊員・丸銭隊員・大野木隊員) ホテル帰着	リーブルビル HOTEL MONT DE CRISTAL	
4	7月21日 土	8:00 11:30 15:00 18:00	リーブルビル発 ランバレネ着	移動(公用車) 警察署(憲兵隊)での情報収集、市街地視察 隊員住居点検(和木隊員・火村隊員・荻野隊員) ホテルチェックイン	ランバレネ HOTEL OGOOUE PALACE TEL:241-58-18-65	
5	7月22日 日	朝 昼頃 16:00 18:00	ランバレネ ポールジャンティ	出発 移動(定期舟) 所要時間6時間 警察署(憲兵隊)での情報収集、市街地視察 (移動は借上車またはタクシー) 隊員住居点検(永井隊員) ホテルチェックイン	ポールジャンティ AUBERGE DES TAPAS TEL:241-07-47-54-89	
6	7月23日 月	10:45 11:15 18:00	ポールジャンティ リーブルビル	出発 移動(空路Air Service X7-1102) 市街地視察 ホテルチェックイン	リーブルビル HOTEL MONT DE CRISTAL	
7	7月24日 火	8:00 10:00 16:00 19:15 20:15	リーブルビル リーブルビル発 ドゥアラ着	事務所(兼隊員連絡所)安全対策点検 駐在員・調整員・専門家住居点検 安全セミナー 出迎え(公用車)	ドゥアラ SERENA PALACE HOTEL TEL:237-33423774 FAX:237-33423782	X7 1145



リーブルビル 大野木隊員、丸銭隊員、三木隊員、原田駐在員住居、JICA 事務所点検  
 ランバレネ 荻野隊員、和木・火村隊員住居点検  
 ポールジャンティー 永井隊員住居点検

## 第1 治安情勢等

### 1 治安状況

#### (1) 政情

ガボンには、1960年8月にフランスから独立し、61年2月にレオン・ムバが初代大統領として就任、大統領の死去後、副大統領であったボンゴが67年11月に大統領が就任、その39年に及ぶ長期政権の下、安定した内政が継続している。

2001年12月に国民選挙が実施され、2002年1月当時の野党を含めた「開かれた内閣」が発足。2005年11月の選挙で7選を果たした。現在、71歳であり7年の任期終了時点には77歳となる。今後「ポスト・ボンゴ」をめぐる政治的混乱から治安上の問題が生ずるおそれもある。

外交面では旧宗主国フランスと行政、軍事、教育等において緊密な関係を持っており、サルコジ大統領は就任後、8月にガボンを訪れている。

政治的安定と石油輸出による経済力を背景に、中部アフリカを中心に積極的な外交を展開しており、アフリカの地域紛争解決・安定のため積極的な活動を行っている。

石油、マンガン、鉄等の鉱物資源、森林資源に恵まれ、石油関連収入が国内総生産の約47%、全輸出額の約81%を占め、アフリカ諸国中、所得水準の高い国のひとつであるが、石油総生産量は1997年をピークに減少に転じており、中期的には石油の枯渇が予測されている。そのため、政府は脱石油依存経済を目指し、漁業、森林業、観光業、サービス業の振興による産業の多角化を図っている。在京ガボン大使館も日本からの観光客の誘致に努力しているが、結果は伴っていない。

新たな油田の開発、産業の多様化が起動に乗らないと、経済的困難に陥り、社会不安が発生する可能性もある。

人口150万弱であり、一人当たりのGNIは5,010米ドルと高い水準にあるが、UNDP人間開発指数は低く122位であり、貧富の格差は大きい。

ほとんどの生活用品、食料等は輸入に頼っており、また、産油国でありながら、国内のガソリン等の価格は非常に高い。

#### (2) 一般犯罪

一般治安状況としては、首都リーブルビル市等都市部においては、不法入国者の流入が継続しており、それに伴い昼夜を問わず凶器による強盗・傷害事件が発生するなど治安が悪化しつつある。特に乗合タクシーの運転手と乗客が共謀したタクシー強盗事件が多発傾向にあり、これらのタクシーの夜間の利用は避けるべきであり、利用の際には貸切にするなどの配慮が必要である。また、やむを得ず相乗りせざるを得ない場合は、女性、老人、子供が乗車している車を選定すべきである。

在留邦人及び邦人渡航者が少ないにもかかわらず、日本人の犯罪被害がしばしば散見され、ガボン政府は対策を強化してはいるものの、改善する様子はみられず、犯罪も地方都市へ拡散する傾向がみられる。

## リーブルビル中央警察署長代理の談

近隣諸国から外国人が入ってきたことによって犯罪件数が増加してきている。リーブルビルにおいては、殺人が時々発生し、盗難に関しては毎日発生している。中でも侵入盗に関しては、警備員がグルの場合が多く、単独犯もあるが多くは数人グループによる犯行で、時間帯としては雨の日の夜に発生しやすく、鉄格子を切断したり広げたりし侵入する手口もあり、家人に気が付かれると強盗に居直り、リボルバーや自動小銃、ナイフ等の凶器を所持しているため、殺人事件に発展することもある。

### (3) 体感治安

#### ○ 薬物犯罪

ガボン国内では、あらゆる麻薬の所持、使用、取引は禁止されており、厳しい処罰の対象となるため、汚染地域、危険地帯への立ち入り禁止の徹底、好奇心から手出しすることがないように、薬物の脅威について機会を捉えて指導徹底することが肝要である。

#### ○ 屋外犯罪

犯罪被害多発地域の市場や、バスターミナル、大型スーパーマーケット、深夜まで営業している飲食街、刃物使用強盗被害発生現場等の視察、強盗被害が多発する乗り合いタクシーを実車した結果から、「強盗、ひったくり被害」に関しては、日没後の不要不急の外出の自粛、やむを得ず遅くなった場合は、タクシーを一台借り上げる等配慮し、日中でも人通りの少ない通りの単独通行は避け、時々後方を振り返る習慣を身に付け、携帯アラームを携行し、不審と感じた場合や咄嗟の時には直ぐ商店や、近くの民家に駆け込んで助けを求める。不幸にして被害遭遇時には、無抵抗に徹するべきである。

また、財布や携帯電話等の貴重品の携行方法に留意し、余分な荷物は持たず、要所要所で注意力を発揮し、日本での安全対策に加え、時間と場所の選定を誤らず、何より安全な国と油断をせずに、海外で生活しているとの意識を持って行動することが望まれる。

#### ○ 交通事故

道路環境が非常に悪く、完全舗装の幹線道路でさえも大きな穴が何箇所もあいており、そのような悪路にもかかわらず、スピードを出しすぎたり、急に車線変更したりするなどの乱暴な運転が目立ち、重大事故の発生が懸念される。1999年、邦人の死亡交通事故の発生もあることから、道路横断する場合等は十分な注意を要する。

#### ○ その他

ランバレネからポールジャンティ間の移動手段として隊員等が利用する交通機関フェリーは、乗船した結果、船の老朽化、超過積載により、沈没事故の危険があり、また、有事の際脱出時に使用するライフジャケットの損傷も激しく個数も不足しており、不定期ではあるが航空機も利用できることから、可能な限り利用しないことが望ましい。やむを得ず利用する場合は多少高額でもより

安全性が高いランク上の船を利用することが望まれる。その際も船の安全性のチェックが必要である。

【リーブルビル】



リーブルビル国際空港



空港内のフランス軍のベースキャンプ



市内の状況



深夜まで賑う飲食店街



ナイフ使用強盗被害発生場所



すり被害等懸念箇所の市場



市場内の鍵屋



PK8 バスターミナル周囲



乗り合いバス



大型スーパー



豊富な品揃いの店内



ガボン大学

【ランバレネ】



ランバレネまで 133km の地点



乗り合いタクシー



ランバレネの市街地



シュバイツァー記念病院



義足等の医療器具



日本人の医師名も掲載



夕食を兼ねて隊員等との懇親会



午前 6 時同型フェリーでポール  
ジャンティに向け出航



フェリー船内は蒸し風呂状態  
超過積載のため沈没事故が懸念



使用不可能なライフジャケット



屋根の重みで支柱が折れ曲がりパニック状態の乗客



## 【ポールジャンティ】



穴だらけのフェリーターミナル



漁業センター



ナイフ使用強盗被害発生通り



隊員の活動先



市内のホテル



市内の市場

## 第2 JICA関係者の犯罪被害実態

### 1 ガボンにおける犯罪被害実態

2005年7月から協力隊員の派遣が開始され、その後発生件数は少ないが以下の犯罪被害に遭遇しており、この他当チームには被害報告がなかったが、刃物でカバンを切られたという断ち切りすり被害報告が隊員の住居訪問の際に隊員自身からあった。これらの被害は全て防止可能である。

#### (1) 罪種別発生状況

- 強盗 2件・屋外強盗 2件ともナイフ使用  
発生時の状況・夜間自転車乗車中、夜間歩行中
- すり・・・混雑しているバス停でズボンの左ポケット内から財布をすられた。
- 居空き・・・配属先で昼寝中枕元に置いていた携帯電話を盗まれた（無施錠）

#### (2) 被害の要因

- 物の管理の不適切
- 安全対策意識の不足・・・夜間及び深夜時間帯の外出等
- 混雑している場所での貴重品の収納箇所、方法の不備
- 安全な国と油断から

## 第3 安全対策推進状況

### 1 事務所の取り組み

## (1) 安全対策取り組み体制

安全対策については、現在安全対策クラークの雇用がされていないことから、原田駐在員の下で長谷川調整員が中心となって実施している。防犯マニュアルは一応作成されており、首都危険マップも作成されてはいるものの、17年3月以降の見直しはされておらず、最新情報に欠ける部分が見受けられる。急ぎマニュアルの見直し、緊急時の連絡体制の整備が望まれる。また、駐在員、ボランティア調整員2名とも男性であるため、一生懸命さは感じられるが、ある意味肌理の細かさに欠ける部分も見受けられ、女性隊員が問題によっては相談しにくい、ということもあり、調整員夫人に相談しているようである。

女性住居の安全対策も、女性に対する配慮がわかりにくい点があるとのことであった。しかし、それ以外の部分では、隊員らに非常に慕われており、まとまりがありアットホーム的な感じを受けた。

## (2) 緊急事態の対応および通信手段

緊急事態対応マニュアルは、まだ整備されていないものの、現在は関係者数が少ないため、現在の体制でも十分緊急時には対応が可能であるが、近い将来SVの要請開拓も視野に入れて40名まで増員する計画との事であるので、防犯マニュアル同様整備が急がれるところである。

通信手段としては、全員が携帯電話を貸与されており、ボランティアは地上波携帯電話の通じる地域にのみ派遣しているので現在のところ通信の問題はない。今後、ボランティアの地方展開によっては、道路のインフラが整備されていないので、注意を要する。

## 2 大使館との関係

加藤大使、千葉県警から出向している広瀬書記官との情報交換は随時行われており、調査団訪問時にも大使公邸の夕食会に原田駐在員、長谷川調整員と共に招かれ、フランス総領事にも同席いただけるよう配慮がなされていた。総領事からは治安情報等や、緊急時の対応要領等につきご教授いただき、加藤大使自ら、平素からの在留邦人に対する便宜供与に対し感謝の意を述べられると共に、地方隊員の緊急時の協力要請等を再度念押ししていただいた。大使の要請に対し、総領事からは「日本人の保護については、EU市民同様に優先して当るので何ら心配はない。」との心強い了承を得られた。

## 3 安全対策クラーク

現在は滞在者数も少なく、適当な人材の確保も困難なため雇用にいたっていないが、来年度同期を目途に40名まで増員する予定であるため、特に地方展開して行く場合に、事務所員2名では目が行き届かなくなることが懸念されるため、ガボン政府、日本大使館、フランス領事館等から適当な人材を紹介してもらい、早期に雇用することが望まれる。

## 第4 JICA関係者の住居等点検結果

### 1 点検実施数

10箇所（JICA事務所兼隊員連絡所、駐在員住居、隊員住居6箇所、入居予定住居2箇所）

## 2 評価基準

- A・・・現在のままで問題ない。
- B・・・若干の改善を加えれば、現在のままで良い。
- C・・・相当の問題あり、可能であれば転居も考えた方が良い。
- D・・・改善不能の問題あり、転居することが望ましい。

## 3 点検結果

- Aに近いB・・・3箇所（丸銭隊員、三木隊員、原田駐在員住居）
- B・・・・・・・・・・5箇所（JICA事務所兼連絡所、大野木、荻野、永井、永井転居候補B住居）
- Cに近いB・・・2箇所（和木・火村隊員住居、永井転居候補A住居）

## 4 総合評価

隊員らの住居環境は概ね安全な地域に選定されており、基本的には配属先、省庁が探して提供されるが、首都リーブルブルでは難しいため事務所が探すケースが多いとの事である。住居費に関しては JICA の負担は一切なく、ガボン政府から 1 人上限 80 万セーファーンの支給と、この他に家具・家電代として上限 100 万セーファーフランの支給があるため、住居の間取りも多く、一応の防犯対策は講じられている。しかし、寝室や玄関、裏口の鍵の強化と寝室のカーテンの取り付け等が一部必要と思料され、更に防犯機材の活用意識が薄いため、外出時は携帯アラームを持ち歩き、寝室にはサイレン付メガフォンを備え置くべきである。

### (1) 各戸の安全点検結果

※ 詳細・・・別添 3「住居等点検結果」参照

## 第 5 所見

- 治安は、長期政権にて安定しているが、後継者が定まっていないことから、大統領が退任する時には混乱が発生する可能性は否定できない。  
一般犯罪は、体感治安でも記述のとおり夜間の徒歩による移動、乗り合いタクシー利用時の強盗事件が報告されているため、夜間の不要不急の外出は控え、乗り合いタクシーは貸切にするなどの対策が必要である。特に女性関係者は、日没後は照明が少なく、場所によっては、目前の人の識別も困難なほどの暗さになるため、夜間は勿論、昼間時間帯でも人通りの少ない通りの単独行動は避けるべきである。
- ガボン事務所で現在使用している公用車は、コートジボアール事務所が使用していたものを引き継いだ車輜である。現在は首都から地方ランバレネの移動手段として悪路走行を余儀なくされ、今後地方展開増員するにあたっては、使用頻度も高くなることが予想され、走行距離等から勘案するに現在の車輜のみでは、タイヤの磨耗等による交通事故発生等が懸念されることから、予算の目途が立ち次第新車購入し、増車することが望まれる。
- マラリア汚染地域であり、現在発症者はいないものの前述のように、来年度同期を目途に 40 人まで増員する計画があるため、隣国カメルーンと兼轄の健康管理員の配置が望まれる。

## 別添 1

## ガボン

被害発生年月日	被害者の区分 (職員、専門家、調査団員等)	被害者数 (人)	被害発生原因	被害の状況
17.10.14	協力隊員 (男)	1	居空き ③ 無施錠・携帯	配属先の事務所で、休憩時間に枕元に携帯電話を置き昼寝をしていた。目が覚めたら携帯電話がなく、施錠せずに閉めたはずの扉が半開きになっていた。
17.11.18	協力隊員 (男)	1	屋外強盗 ナイフ使用 ③	深夜 11 時 30 頃、友人宅からの帰り道、自転車に乗り帰宅途中 2 人組のナイフを持った男達に追い越しざまに首をつかまれ自転車から引き摺り降ろされた。その場に倒れると同時に殴る蹴るの暴行を受け、更にナイフで脅され金を要求された。金を渡すと金とバックを奪って逃走した。バックの中には携帯電話や電子辞書が入っていた。
18.02.27	協力隊員 (男)	1	すり ③	バス停でバスに乗込む際に他の乗客にもまれ、ズボンの左ポケットに入れていた財布と、身分証明書カードを盗まれた。
18.03.24	事務所員 (男)	1	屋外強盗 ナイフ使用 ③	深夜 0 時 20 分頃大使館員の送別会の帰り、車の駐車位置まで行くと、ナイフを所持した 2 人組の強盗団に囲まれて、ベルトにつけていた携帯電話と、ズボンのポケット内から財布・小銭入れを奪われた。大声で助けを呼んだため、黙らせようと腹部を殴ってきたが、大声を出し続けたので近所の人が駆けつけてきた。犯人等はそれを見て押し倒し逃走した。

## 住居等点検結果

## 1 大野木 智子隊員宅

【実施日時】 2007.7.20 午後 2 時 30 分頃～15 : 22

【所在地】 首都リーブルビル BOULVART ソシガ地区

【評価】

◎ 評価・・・B

【住居の概要】

- ① 大野木隊員宅は、首都リーブルビルのソシガ地区にある国道 1 号線に面している、ブロック造り 3 階建ての 8 世帯入居のアパートで、隊員は 1 階に居住している。
- ② アパートの周囲は住宅街で、敷地周囲を高さ約 0.9m～3m のブロック塀で囲み、塀の上部には高さ約 0.4m のフェンスを取り付けている。建物正面に鉄製の通用門があり、夜間は (21 : 00～翌 6 : 00) 施錠されている。
- ③ ガードマンは、通用門を入った右奥の待機所におり、午前 6 時と午後 6 時の 2 交代制で 4 人でローテーションが組まれている。
- ④ 通用門を入るとアパートの正面玄関があり、外側両開きの鉄格子扉と内側両開きのガラス扉の二重扉になっており、鉄格子扉の上下には南京錠用の金具があるが、南京錠は取り付けてなく、扉の中央に頑丈な両面シリンダー錠を取り付けている。内側のガラス扉の下部には、両面シリンダー錠を取り付けている。
- ⑤ アパートの出入り口は玄関の他に左右に二箇所あり、玄関扉と同様の二重扉と錠前が取り付けられている。一ヶ月前まで玄関は施錠されて締切りとなっていたため、隊員は通常建物左側扉から出入りしていた。
- ⑥ 隊員居室入り口扉は、内側片開きの 1 枚板の扉で、中央に両面シリンダー錠を取り付け、ドアスコープ、ドアチェーンを取り付けている。両面シリンダー錠の上部に 2 箇所錠前を取り付けてあるが、鍵が無く使われていない。
- ⑦ 玄関の正面に廊下を挟んで居間があり、扉は内側両開きの中央ガラス入りの扉で、扉の中央に棒鍵錠を取り付けている。室内の引き戸式ガラス窓と、エアコンの室外機取り外し箇所には、外側から鉄格子を取り付けている。
- ⑧ 居間の左隣が主寝室になっており、合板の内開きの扉には棒鍵錠が取り付けられているが、内鍵は取り付けしていない。室内のエアコン取り外し箇所は、板で塞がれて外側から鉄格子を取り付け、引き戸式のガラス窓にも外側から鉄格子を取り付けている。ガラス窓から適度な距離を置きベッドが置かれているものの、非常時に使用できるサイレン付きメガフォンの備え付けはされていない。
- ⑨ 玄関左側にキッチンがあり、片側内開きのガラス入り入り口扉には、中央に棒鍵錠を取り付けている。キッチンのルーバー式ガラス窓には、外側から鉄格子を取り付けている。
- ⑩ 廊下突き当たり奥に、バス・トイレ室があり、入り口は合板の扉で中央の内側にサ

ムターン式の内鍵を取り付け、ルーバー式ガラス窓には外側から鉄格子を取り付けている。

- ⑪ 大野木隊員は市場で断ち切りすり被害にあっており、金品の実害はないがバックをT字に切られている。
- ⑫ 大野木隊員は配属先変更により、転居予定であるが、当該住居には 19-1 武田隊員が入居予定である。

**【問題点と改善策】**

- ① 玄関扉に面付けの内鍵を増設し、可能であればドアチェーンを取り付ける。
- ② 寝室扉に内鍵を増設する。

**【住居の写真】**



アパート前の通り  
なだらかな坂になっている



アパートの正面



警備員待機所



アパートの裏側の状況



アパート正面出入口



アパート左右の出入口



住居の裏側

エアコン取り外し箇所にも鉄格子を取り付け防備



大野木隊員住居入口



玄関扉の内側

錠前は3個あるが上部2個は使用不可



リビング入口





リビングの窓  
外側に鉄格子を取り付けている。  
窓下はエアコン取り外し箇所。



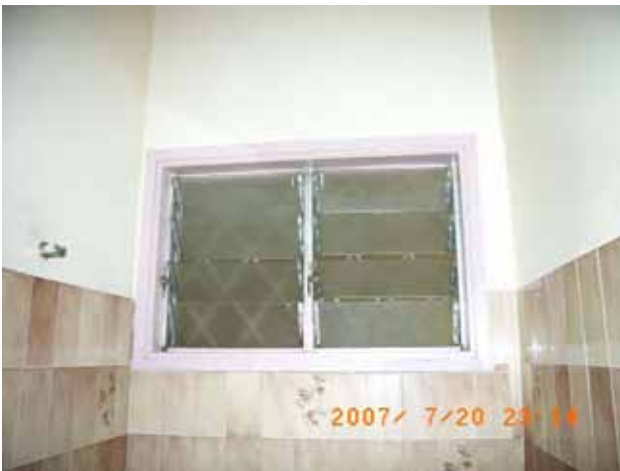
トイレの高窓



寝室  
窓には外側から鉄格子を取り付けている。



寝室の扉  
合板扉、中央に棒鍵錠を取り付けている。



寝室内のシャワールーム  
ルーバー式の高窓にも鉄格子を取り付けている。



キッチンの窓



断ち切り拘り被害時のバックの持ち方



赤丸内が切られた箇所

## 2 丸銭 笑子隊員宅

【実施日時】 2007. 7. 20 15:54~16:20

【所在地】 首都リーブルビル・ルイ地区 271

【評価】

◎ 評価・・・Aに近いB

【住居の概要】

- ① 隊員住居は、首都リーブルビル・ルイ地区の住宅街に位置し、歯科医院があるブロック造り2階建て集合住宅の1階右側に居住している。住居の左隣には同期の三木隊員が居住している。
- ② 建物敷地周囲を高さ約2.2mの上部に鉄柵を取り付けている塀で囲み、通用門を2箇所設け、正面側には大型の車両通行可能な両側内開きの鉄柵の通用門があり南京錠を取り付け夜間は締め切っている。敷地左側に別棟に通じる内側両開きの通用門があり、中央を鎖と南京錠で施錠している。
- ③ 正面の通用門右側敷地内にガードマンの待機室があり、出入りをチェックしている。ガードマンは24時間1人体制で、夜間就寝する時は飼い犬を放し飼いにしている。
- ④ 門を入ると中庭と駐車場になっており、歯科医院の患者の駐車スペースも含めると10台以上の駐車が可能である。家屋はブロック造りトタン葺き2階建ての建物で、裏側には別棟の大家宅がある。
- ⑤ 隊員居室入り口扉は、片側内開きの1枚板の扉で扉の中央に両面シリンダー錠を取り付けている。玄関を入るとリビングルームになっており、駐車場に面した引き違い式ガラス窓には、外側に鉄格子を取り付けている。ガラス窓と玄関扉の錠前との距離は約68cmしかない。
- ⑥ リビングルームの右側に数段階段があり、キッチンになっている。キッチンの2箇所ある窓にも鉄格子を取り付けている。
- ⑦ リビングの正面に寝室があり、寝室の扉は合板扉で扉の中央に両面シリンダー錠を取り付けているが内鍵は取り付けていない。寝室の引き戸式ガラス窓には外側に鉄格子を取り付けている。
- ⑧ 寝室の奥に合板扉があり、バス・トイレ室になっている。扉の中央にサムターン式の内鍵を取り付けており、室内の高窓にも外側に鉄格子を取り付けている。

【問題点と改善策】

- ① 本来であれば玄関扉にドアチェーンと内鍵を取り付けることが望ましいが、窓と扉が68cmしか離れておらず、ガラスを割って手を差し入れると簡単に取り外しが出来る。丸銭隊員は任期残り4ヶ月強であることから、現状維持のまま治安情報の収集に努め、近隣住居等で侵入盗の被害が多発するようであれば、両面シリンダー錠をもう1箇所増設するか、南京錠を取り付けることが望ましい。
- ② 寝室扉に内鍵を取り付け、窓には室内が見えないようカーテンを取り付ける。

【住居の写真】



丸銭・三木隊員住居前の通り



通りの反対側か見た入居建物



敷地正面通用門



門柱に歯科医院の看板を取り付けている



敷地裏側の通用門



入居の建物  
赤丸が丸銭隊員、黄丸が三木隊員住居



丸銭隊員住居玄関



玄関扉とリビングの窓  
錠前と窓との距離は約 68cm



キッチン



全ての窓には外側から鉄格子を取り付けている



寝室とシャワー・トイレ室入口



寝室の扉  
両面シリンダー錠を取り付けている。



ベッドは窓から離れた場所に位置している。



貴重品等を保管しているスーツケース



シャワー・トイレ室入口



室内の内倒し窓

### 3 三木 典依隊員宅

【実施日】2007.07.23 16時24分～16時45分

【所在地】首都リーブルビル・ルイ地区

【評価】

◎ 評価・・・Aに近いB

【住居の概要】

- ① 三木隊員住居は、丸銭隊員住居と同じ敷地の中にあり、歯科医院が入居している建物側の出入り口を利用している。出入り口扉は内側片開きのガラスの扉で、扉の中央に両面シリンダー錠を取り付けている。扉を入ると左側に歯科医院があり、隊員の住居は扉の右側に位置している。
- ② 住居の玄関扉は頑丈な片側内開きの1枚板の扉で、扉の中央には両面シリンダー錠を取り付けているが、内鍵とドアスコープ・ドアチェーンの取り付けはなく、時々歯科医院と勘違いして患者が扉をロックすることがある。
- ③ 玄関を入ると居間があり、居間の引き違い式ガラス窓には外側から鉄格子を取り付けている。居間の奥にカウンターが取り付けられており、キッチンになっている。
- ④ キッチンの右手奥が寝室になっており、寝室の出入り口扉は片側内開きの合板の扉で扉の中央には両面シリンダー錠を取り付けているが、内鍵は取り付けしていない。室内には1箇所引き違い式ガラス窓があり、居間同様外側に鉄格子を取り付けている。窓にはカーテン・ブラインドの取り付けはなく、外から室内を覗き見ることが出来る。
- ⑤ 居間の左側にバス・トイレ室があり、扉は合板の内側片開きの扉で、扉の内側にサムターン式の内鍵を取り付けている。室内の引き出し式ガラス窓は、差し込み式錠前を取り付け、窓の外側から鉄格子を取り付けている。

【問題点と改善策】

歯科医院と間違えた患者が時々玄関をロックすることがあることから、ドア越しの対応をし、不用意に扉を開けないようにする。

- ① 玄関扉にドアチェーンとドアスコープと内鍵を取り付けるとより安全性が高まるが、三木隊員も任期残り4ヶ月強のため、現段階ではドアチェーンを取り付け、後任入居時にドアスコープと内鍵を取り付ける。
- ③ 寝室の扉に内鍵を取り付け、外から室内が覗けないように厚地のカーテンを取り付ける。

【住居の写真】



歯科医院と共同のガラス扉



医院の案内プレート



ガラス扉の両面シリンダー錠

防犯ガラスでない限りガラスを割ると侵入可能



隊員住居玄関



玄関扉内側

両面シリンダー錠のみ、内鍵等の設置はない。



リビング兼台所





寝室の扉

両面シリンダー錠、内鍵はない。



寝室の窓

カーテンを取り付けてないため外から室内が見える。



シャワー・トイレ室入口



トイレの内倒し窓

#### 4 荻野 芳一隊員宅

【実施日時】2007. 7. 21 15:30～16:15

【所在地】ランバレネ・アトンゴワンガ地区

【評価】

◎ 評価・・・B

【住居の概要】

- ① 荻野隊員住居は、ランバレネ・アトンゴワンガ地区の比較的高級な住宅街に位置し、広大な敷地の周囲を高さ約1.5mのブロック塀の上部に高さ約0.9mの鉄柵を取り付けた塀で囲み、車両通行可能な内側両開きの鉄柵の通用門を2箇所設け、中央に両面シリンダーと頑丈な南京錠を取り付け夜間は締め切っている。敷地の右手には大家の親族が居住しており、左側に市長の住居がある。
- ② 大家親族住居を拠点とし敷地内には警備員が配置されており、隊員居住建物も含め巡回警備している。
- ③ 敷地内には通り側に1棟、その奥に一部2階建ての4世帯入居可能な長屋式の建物があり、隊員住居は建物向かって左奥に位置している。隊員住居の右隣にはガボン人が入居しており、右側2軒は空き家になっている。
- ④ 住居の玄関は片側内開きの1枚板の扉で、扉の中央に両面シリンダー錠を取り付けているが、ドアチェーンとドアスコープは取り付けていない。
- ⑤ 玄関を入ると右側が寝室になっており、片側内開きの合板扉を取り付け、扉の中央に両面シリンダー錠を取り付けている。室内にはルーバーガラス窓が1箇所あり、外側に鉄格子を取り付けている。当寝室には貴重品を保管していることから、メイドも入らないように指示している。
- ⑥ 玄関を入ると正面にシャワー・トイレ室があり、室内の窓は外側片開きの板扉と内側には網戸を取り付けており、扉の中央に門錠を取り付けている。
- ⑦ 玄関左側は居間兼食堂になっており、入り口扉は片側内開きの合板扉で、扉の中央には棒鍵錠を取り付けている。室内の2箇所の窓は外側両開きの板扉と内側両開きの網戸が二重扉に取り付けられており、それぞれの扉の中央に門の錠前を取り付けている。
- ⑧ 居間の右側には台所の出入り口があり、扉の左側に裏口の出入口扉がある。台所の窓は居間と同様の外側両開きの板扉と、内側には網戸を取り付け錠前も居間同様の門錠を取り付けている。
- ⑨ 裏口の扉は外側片開きの板扉で、扉の中央に両面シリンダー錠を取り付けているが、内鍵等は取り付けていない。

【問題点と改善策】

全ての窓に鉄格子を取り付けることが望ましいが、荻野隊員居住地区は治安が良く、住居周辺で侵入盗被害の発生もないとの事であるため、現段階では窓の閉め忘れ、施錠

忘れのないよう配慮し、現在実施している寢室の防備を継続し、以下の対応のみとする。  
しかし今後治安が悪化し、住居周辺で侵入盗被害が多発した場合は、侵入経路、手口等を調査した上で必要な住居防犯を講じることとする。

玄関の扉に面付けの内鍵とドアスコープ、ドアチェーンを取り付ける。

- ① 寢室の扉に面付けの内鍵を取り付ける。
- ② 裏口扉の木枠が腐食しているため、木枠を取替えて面付けの内鍵を増設する。

### 【住居の写真】



隊員住居前の通り



隊員が通常利用している通用門



通用門内側の錠前



敷地内に収納されたボート等



隊員入居建物全景



隊員住居  
赤丸内が隊員の住居



敷地裏側の崖



住居の裏口



隊員住居玄関



玄関扉の内側  
両面シリンダー錠



寝室  
貴重品は全てここに施錠し保管



シャワー・トイレ室



居間兼食堂



キッチン



キッチンの窓



裏口扉  
両面シリンダー錠

5 和木 明日香、火村 絵里奈隊員住居

【実施日時】 2007. 7. 21 16 : 35～17 : 20

【所在地】 ランバレネ、アトンゴワンガ地区

【評価】

◎ 評価・・・Cに近いB

【住居の概要】

- ① 和木、火村隊員の住居は、ランバレネ、アトンゴワンガ地区の傾斜の緩い坂道を上りきった住宅街の角地に位置するブロック造り平屋の建物で、敷地の周囲を高さ約 2.2m のブロック塀の上部に、高さ約 0.3m の鉄柵を取り付けた塀で囲んでいる。当住居は、以前は東和建設の社宅として使っていた家屋で、いたるところに老朽化が目立つ。
- ② 敷地の右手に 2 棟、通りを挟んで同様の住居が 3 棟あり、住居の裏側の高い塀の住居には大家の親族が居住しており、左側住居には市長が居住している
- ③ 敷地を囲む塀に沿って、道路に 2 箇所電柱が設定されており、この電柱にはメンテナンス用か階段様の足場があり、これを使うと敷地内に侵入される懸念がある。
- ④ ブロック塀の建物正面側には車用の内側両開き通用門と、人用の片側内開きの通用門を設けており、隊員等は片開きの通用門のみを利用しており、通常両開きの通用門は施錠して締め切っている。両扉の中央に両面シリンダー錠を取り付けている。
- ⑤ 通用門を入ると数段の階段があり、玄関になっている。玄関の右側には車庫があり警備員の待機室に利用しており、深夜 0 時から明朝 6 時まで敷地内の警備を行っている。敷地の裏側は広い庭になっている。
- ⑥ 玄関扉は内側両開きの板扉で扉の中央に両面シリンダー錠を取り付け、扉の上下に門式の差込上を取り付けているが、床の差込用の穴に砂などが詰まって浅くなっており、上部の差込用の留め金は、金具を取り付けたのみで強度にやや問題がある。
- ⑦ 玄関を入ると右側がサロンになっており 2 箇所ある窓はルーバー式のガラス窓であるが、外側から鉄格子を取り付け、内側には薄手のカーテンを取り付けている。
- ⑧ サロンの左奥にキッチンがあり、キッチンから住居の裏側に出入りが出来る。サロン側は外側片開きの合板扉で、扉の中央に両面シリンダー錠を取り付けている。室内の 1 箇所の窓にも外側から鉄格子を取り付けている。
- ⑨ 裏口扉は内側片開き合扉でサロン側同様、扉の中央に両面シリンダー錠を取り付けているが、扉が歪んでおりやや強度に欠け、開閉がスムーズに出来ない難点がある。
- ⑩ 玄関を入った左側のサロンと反対側には内側片開きの板格子の扉があり、隊員らの寝室の出入口となっている。扉の中央に棒鍵錠のみ取り付ており、他に内鍵等

の取り付けはない。

- ⑪ 寝室入口扉を入ると廊下になっており、廊下を挟んで右側には手前からトイレ、浴室、和木隊員寝室があり、左側には手前から、火村隊員寝室、予備寝室（洗濯物干しに利用）がある。
- ⑫ 右側のトイレ、浴室にはそれぞれ内開きの合板扉にサムターン式の錠前を取り付け、それぞれのルーバー式ガラス窓には外側に鉄格子を取り付けている。
- ⑬ 浴室の左隣が和木隊員の寝室になっており、入口扉は合板の片側内開きの扉で扉の中央には両面シリンダー錠を取り付けているが内鍵の取り付けはない。寝室の天井の一部に穴が開いており老朽化が見受けられる。寝室内には専用のシャワー・トイレ室があり、寝室の窓にもトイレ室の高窓にも外側から鉄格子を取り付けている。
- ⑭ 火村隊員寝室の扉も、和木隊員寝室同様に片側内開きの合板扉で、扉の中央に棒鍵錠を取り付けており、内鍵等の取り付けはない。寝室の窓やエアコンにも外側から鉄格子を取り付けているが、窓のカーテンが薄い上にカーテンの幅が足りず、外から室内を覗き見ることが出来る。
- ⑮ 予備寝室は現在洗濯物干し室に利用しており、窓には外側から鉄格子を取り付けている。エアコンは取り外されており、取り外し口はベニヤで塞ぎ外側から鉄格子を取り付けてはいるが不安を感じる。

#### 【問題点と改善策】

両隊員は 17-2 次隊であり、本年 11 月で任期が終了することから、当住居は老朽化がいたるところに目立ち、また、塀に面して侵入の手助けとなりうる電柱が 2 箇所を設置されていることから、後任の要請がなければ入居させないことが望ましい。このまま引き続き関係者を入居させるのであれば、以下の改善を要する。

- ① 玄関扉が内側両開きの扉であるため、押す力に弱いことから扉の内側に門棒を取り付け補強する。



四角側を固定、赤丸側を南京錠等で施錠

- ② 裏口扉は歪んでいるため修理し、上下に南京錠をバランス良く取り付け補強する。
- ③ 寝室側入口扉が板格子で、錠前は棒鍵錠のみであるため、を可能であれば、扉を合板扉か1枚板扉に取替え、サムターン式シリンダー錠を取り付け、面付けの内鍵も追加する。扉を交換しない場合は、両面シリンダー錠と内鍵を追加設置する。
- ④ 火村隊員の寝室の扉は棒鍵錠のみであるため、サムターン式シリンダー錠と面付けの内鍵を取り付ける。また、ベットの頭の位置が窓に近いので、頭の向きを反対側の足側し、窓のカーテンは外から覗かれないように、窓より幅広い厚手のカーテンに取り替えるか、ブラインドに取り替える。
- ⑤ 和木隊員寝室扉の内側に面付けの内鍵を取り付ける。
- ⑥ 予備寝室のクーラー取り外し口は、ベニアで塞いでいるだけであり弱いため、内側から頑丈な板で塞ぐ。
- ⑦ 大家と交渉し、軒下と家屋内外の損傷部分を修理する。
- ⑧ 電柱を利用し、敷地内に侵入されることが危惧されるため、夜間警備員を居眠りしないよう指導徹底し、時々抜き打ちで点検する。

【住居の写真】



住居周辺の状況



2 隊員住居



問題の足場となる電柱



隊員利用の通用門





敷地内通用門側



敷地内右側



裏側の大家親族の住居



敷地左側



正面玄関



住居右側の車庫  
警備員待機所として使用



住居の裏側



和木隊員寝室の外側  
赤丸内専用シャワー・トイレ室高窓



予備寝室と火村隊員寝室の外側  
黄丸側火村隊員居室、赤丸内が問題のクーラー  
取り外し口、鉄格子は細めで強度に欠ける



傷みの酷い軒下



玄関の内側  
上部差込の金具が脆弱



サロン、左奥がキッチン



キッチンと裏口

裏口は歪んでおり開閉がスムーズでない



寝室側入口扉

格子状の扉で、棒鍵錠のみ



トイレ

高窓にも外側に鉄格子を取り付けている



浴室

2箇所ルーバーガラス窓にも鉄格子を設置



和木隊員寝室

扉には内鍵は取り付けしていない



天井に開いた穴



火村隊員寝室

カーテンが薄く窓の幅よりの狭く、  
ベットの頭の位置が問題



寝室の扉

棒鍵錠を取り付けているが、内鍵はない



予備寝室



クーラー取り外し口

弱いベニア板で塞ぎ外に鉄格子を取り付けている



腐食している扉の錠前

## 6 永井 慎二隊員住居

【実施日時】2007.7.22 15:50~16:20

【所在地】ポールジャンティー リセデタ地区

【評価】

◎ 評価・・・B

【住居の概要】

- ① 永井隊員住居は、ポールジャンティー、リセデタ地区の、ポールジャンティー空港から約5kmの距離に位置した、郊外の住宅が所々に点在するブロック造り平屋の2軒長屋で、右隣にはガボン人家族が居住しており、隣家とは壁で接している。
- ② 建物周囲を高さ約1.6mのブロック塀で囲み、玄関側に内側片開きの鉄柵の通用門と、その左側の車庫に両開きの鉄柵の通用門を取り付けている。隊員は通常玄関側の通用門を利用しているが、通用門には錠前の取り付けはなく、誰でもが敷地内に入ることが可能である。
- ③ 通用門を入ると玄関になっており、玄関扉は内側片開きの1枚板扉で、扉の中央に両面シリンダー錠と漁年シリンダー錠を挟んで上下にサムターン式シリンダー錠がバランス良く取り付けられている。
- ④ 玄関を入るとリビングになっており、リビングの2箇所のルーバー式ガラス窓には外側に鉄格子を取り付けている。
- ⑤ リビングの奥に内側片開きの合板扉があり、寝室になっている。扉の中央には棒鍵錠を取り付けている。寝室の1箇所のルーバー式ガラス窓にも外側から鉄格子を取り付けている。
- ⑥ 寝室の右側にシャワー・トイレ室があり、この部屋は隣家と壁で接しており窓はなく換気が悪い。

【問題点と改善策】

当住居に関しては、配属先との関係で8月1日引っ越す予定であり、特別手を入れる必要はないが、引き続き居住させるのであれば、以下の改善を要する。

- ① 通用門の上下2箇所に鎖で南京錠を取り付ける。
- ② 玄関扉にドアスコープ、ドアチェーンを取り付ける。
- ③ 寝室扉に内鍵を取り付ける。
- ④ シャワー・トイレ室の換気を良くする。
- ⑤ 通勤は徒歩で30分との事である、前任者が屋外強盗被害にあっていることもあるため、有事の際通勤経路に駆け込んで助けを求められる場所を確保する。

【住居の写真】



長屋全体の状況



隊員住居  
コンパクトで護りやすい



住居の側面



住居裏側  
壁に接して廃屋がある



通用門



窓の鉄格子



玄関扉



扉の内側

3箇所に鍵を取り付けている



居間のルーバー式ガラス窓



寝室の入口扉



寝室扉の内側

扉の錠前は棒錠錠のみ



シャワー・トイレ室

換気環境が悪い

7 永井 慎二隊員転居候補 A 住居

【実施日時】 2007. 7. 22 16:38~16:45

【所在地】 ポールジャンティー

【評価】

◎ 評価・・・C

【住居の概要と問題点】

- ① 転居予定住居一帯は、現在居住している地域よりも世帯数も多く、空き地が少ない地域のブロック造りの平屋の住居で、大家家族と棟続きであり、防犯上は良好である。
- ② 大家が不在のため室内の見分は出来なかったが、工事の進捗状況からして8月1日入居は不可能と思われる。
- ③ 玄関扉のガラスの部分には、鉄格子を取り付けているが、扉の木の枠が老朽化しているため木枠毎交換する必要があるが、室内は手を加えても現在入居している住居よりも居住性が高くなるとは思えないことから、他に適当な物件を探すべきと判断される。

【候補物件の写真】



候補物件前道路



通用門



現在増築中



傷みが酷い玄関扉の木の枠



8 永井 慎二 隊員転居候補 B 住居

【実施日時】 2007. 7. 22 16:49~17:05

【所在地】 ポールジャンティー

【評価】

◎ 評価・・・現在は B

【候補物件の概要】

- ① 隊員転居候補物件は、比較的高級住宅が点在する住宅地に位置する、ブロック造り平屋の 3 軒長屋で、現在工事中である。長屋の手前には道路に面して大家の高級住宅があり、長屋の裏側には小さな沼と、奥に樹木が生い茂っており林の状態である。
- ② 長屋の周囲は今後の工事で様変わりを見せると推測されるが、高さ約 2.2m~2.5m のブロック塀で囲み、長屋の裏側はこの塀が建ち上がって屋根と繋がっているため、裏側の窓は外からは近付くことが出来ない。
- ③ 長屋の入り口には通用口があり、通用門等の備え付けが予想される。
- ④ 各室の玄関扉は、片側内開きの 1 枚板の頑丈な扉で、扉の中央に両面シリンダー錠を取り付けている。玄関以外の室内の扉は合板の扉で、トイレ室を除き両面シリンダー錠を取り付けている。トイレ室はサムターン式錠前である。
- ⑤ 窓は現在工事中で鉄格子等の備え付けは無いが、塀に立てかけて置いてあるため、今後備え付けられるものと推測される。

【問題点と改善策】

現在工事中であり、今後の進捗状況等を尋ねるにも大家不在のため詳細については聴取が出来なかったが、大家住居が直近にあり、長屋もある程度安全性が確保できると思われる造りであることから、一番手前の部屋を除けば以下の対策を講じた後、入居可能と思料される。但し、裏側の屋根がトタン板のため、屋根からの侵入に対し室内の窓を含めた裏側の防備をより強化してくれるよう、大家と交渉するべきである。

- ① 玄関扉に内鍵とドアスコープ、ドアチェーンを取り付ける。
- ② 寝室の扉に内鍵を取り付ける。

【候補B物件写真】



長屋周辺住居



手前に位置する大家住居



長屋の入り口（通用口）



長屋の裏側

ブロック塀で裏側をカバー、但し屋根はトタン板



各室の玄関側  
赤丸内鉄格子



長屋の裏側への通路  
一番手前の部屋の脇



各室の玄関扉



玄関から見た室内と裏側



室内から見たルーバー式窓



室内の状況



通路側に面した窓



トイレ室はサムターン式錠前

## 9 JICA ガボン事務所

【実施日時】 2007. 7. 23 15:26~16:55

【所在地】 首都リーブルビル ルイ地区

【評価】

◎ 評価・・・B

【事務所の概要】

- ① 事務所は、市街地の中心部から路地約 300m 程入った、住宅や事務所入居建物が混在している地域に位置し、左隣はガボン人の住居、右隣に WHO の事務所、通りを挟んで向かい側には NGO が入居している。
- ② 敷地の周囲を高さ約 1.7~2.2m のブロック塀の上部に鉄の忍び返しを付けた塀で囲み、事務所正面向かって右側の WHO 側に、鉄製の内側両開きの通用門と警備室があり、左隣家側の塀の上部には監視カメラを取り付け、通用門周辺の監視をしている。
- ③ 鉄製の高さ約 1.7m 通用門は、通常警備員が開閉しており、来訪者は警備室壁に取り付けられたカメラ付きインターフォンを鳴らし、警備員に来意を告げ敷地内に入る。インターフォンの右横には、来訪者を確認できる小窓の取り付けもされている。警備員は 12 時間交代で、日中、夜間とも 1 人体制である。
- ④ 通用門の上部には山形に忍び返しを取り付けており、扉の内側中央には両面シリンダー錠を取り付け、扉の下部には差し込み錠を取り付けているが、差し込みの穴が浅く約 1cm しかないため、固定能力に問題を感じる。
- ⑤ 通用門を入ると通路があり、通路を左に折れると事務所玄関に通じ、更に直進すると事務所裏側隊員連絡所入口に通じる。敷地内には監視カメラが玄関前、裏口側、隣家との壁側 2 箇所、警備待機室軒下の 5 箇所に設置されており、事務室内でモニタリングされている。
- ⑥ 事務所玄関扉は、外側両開きの鉄格子扉と、その内側に外側両開きの網戸、更に内側両開きのガラスの木枠付き扉を取り付け、鉄格子扉の上部には、両面シリンダー錠とテンキー式のオートロックの取り付けがされ、内側の扉には中央に両面シリンダー錠 2 個取り付けており、扉の上下を閉式の差込錠で固定しているが、床の穴の深さが約 1.5cm しかない。
- ⑦ 玄関を入ると受付カウンターがあり、カウンター奥が執務室になっており、調整員席、ナショナルスタッフ席、調整員席奥右側、玄関に正対して駐在員席がある。駐在員席左側の窓には外側から鉄格子を取り付け、フランス落とし錠を取り付けている。執務室の玄関扉の上部左斜めの壁にモニターテレビを取り付け、事務所員全員でモニタリングしている。執務室の左側には応接室、奥突き当たりに台所、右側には倉庫、会議室、隊員連絡所への入口がある。
- ⑧ 執務室左側の応接室の入口扉は外側両開きの 4 枚扉で、中央の 2 枚扉の中央に錠

前を取り付け、4枚扉の上下3箇所を差し込み錠で固定しており、これらの3箇所の差込錠を取り外すと、4枚の扉が内側に全開可能で、大型の家具の運び出しも可能である。室内の全てのルーバーガラス窓には外側に鉄格子と、網戸を取り付けている。

- ⑨ 執務室奥の台所入口は片側外開きの合板扉で、扉の中央に棒鍵錠を取り付けているが、内鍵の取り付けはない。台所奥に裏口扉が3枚あり、手前には鉄格子の片側内開きの扉があり、扉の中央に両面シリンダー錠を取り付けている。鉄格子扉の外側には網戸が、更にその外側に片側外開きの1枚板の扉があり、扉には上部から順番にサムターン式シリンダー錠、両面シリンダー錠2個をバランス良く取り付けている。台所の高窓には外側から鉄格子を取り付けている。
- ⑩ 隊員等はこれらの裏口扉から、台所扉を通りさらに執務室を抜けて連絡所等に入ることができる。
- ⑪ 執務室右側の合板の外側両開きの扉が隊員連絡所、会議室、倉庫の通用口になっており、合板扉の中央には棒鍵錠を取り付けており、片側の扉の上下を閉式差込上で固定している。合板扉の内側には外側両開きの鉄格子扉を取り付けており、扉の中央に両面シリンダー錠を取り付けている。
- ⑫ 扉を入ると奥に向かって廊下があり、廊下の右側から倉庫、会議室、男性用寝室、廊下突き当たりに男性用バス・トイレ室があり、男性用寝室の廊下を挟んで向かい側に女性用寝室とバス・トイレ室がある。各室の扉は合板の片側内開きの扉で、扉の中央に棒鍵錠を取り付けている。各室の全ての窓には外側から、鉄格子を取り付けている。
- ⑬ 男女のバス・トイレ室ガラス窓にはフランス落とし錠を取り付けており、女性用寝室の扉には棒鍵錠の他に上部に2箇所面付けの内鍵が取り付けられ、女性用のバス・トイレ室入口扉にも1箇所内鍵が取り付けられており、安全上の配慮が見られる。
- ⑭ 女性用寝室の手前左側にテラス出入口があり、内側には片開きの鉄格子扉を取り付け、外側には外側片開きの合板の扉を取り付けている。テラスの外側は全体に頑丈な鉄格子を取り付けており、内側には網戸を取り付けてそれぞれの中央に通用口を設け、鉄格子扉は中央を南京錠で施錠し、扉の下部を差し込み錠で固定している。

#### 【問題点と改善策】

事務所防犯実施中に、警備室のカメラ付きインターフォンとモニターテレビの監視等が出来ないことに気が付いたため、23日日中勤務の警備員に真相を究明したところ、臨時に派遣された警備員によってポリバケツが燃やされたこと、その結果電線が焼け警備室内が停電状態となっていることが判明した。報告を怠ったことを問い詰めると、ナショナルスタッフのレイ氏には報告したとの事であったが、所長、調整員に対しては何の

報告もなかったことが判明した。

- ① 敷地裏側の洗濯室屋根から鉄筋が事務所側に伸びており、隣家から洗濯室屋根に上り、鉄筋伝いに敷地内と事務室屋根から侵入することが容易なため、監視カメラで裏口側の監視を強化するため、目隠しになっている裏側塀側に生い茂っている立ち木等の伐採をし、カメラの位置もより機能可能な位置に変更する。
- ② 事務所玄関の内側のガラスの扉に、テンキー式錠前（裏側はサムターンではなく、シリンダー式）を追加設置し執務中の出入りに利用する事務所員全員退室する場合は全部の錠前の施錠を怠らない。



テンキー錠、電気は不要  
両面シリンダー錠も併設



裏側のシリンダー錠  
室内からは鍵を用いて開閉する



テンキー錠  
裏側サムターン式、鍵不要

- ③ 台所奥の裏口鉄格子扉と板扉にもテンキー式錠前を追加設置し、台所内にキーボックスを設け、安全上の理由から執務室内を通ることなく、サロンの出入口から直接隊員連絡所や図書室に隊員らが入り可能にする。
- ④ 台所の扉は棒鍵錠のみのため、バランス良く上下に2箇所サムターン式シリンダー錠を追加設置する。
- ⑤ 男性用寝室に面付けの内鍵を追加設置する。
- ⑥ 両開き扉は押す力に弱く、また床の差込錠の穴は埃や砂が詰まっていたり、元々の深さが足りなかったりし、扉がしっかりと固定されないため、床の穴は可能であれば深さ5cm以上が望ましいが、最低でも3cm以上の深さに改善する。
- ⑦ 警備員の勤務実態、特に夜間時間帯を抜き打ちでチェックし、問題があった場合はその場で指導し、更に警備会社を通じ今後の改善を要求する。また、場合によっては抜き打ち巡回、電話での確認等により勤務状況を会社が定期的にチェックしてくれるよう依頼する。

【事務所・隊員連絡所の写真】



事務所前の通り  
首都にもかかわらず道路は穴だらけ



事務所の囲い堀  
監視カメラ



通用門  
赤丸内警備室



カメラ付きインターフォン



通用門の内側  
中央両面シリンダー錠



警備室内の使用不可能なモニターテレビと  
カメラ付きインターフォン



警備室入口上部の監視カメラ  
敷地右側をカバー



燃やされたバケツと電線



敷地内右側



矢印先監視カメラ  
敷地の裏側をカバー



楢円内の目隠しの立木を伐採  
矢印先はサロン入口



矢印のように隣家から洗濯室の屋根に下り  
敷地内と、事務所の屋根から侵入懸念箇所





四角内、問題の洗濯室軒下から事務所軒下に取り付けられている鉄筋



事務所前面



事務所入口  
赤丸内監視カメラ



裏口とサロン入口



執務室内のモニターテレビ



玄関扉の内側



執務室



駐在員席



応接室入り口扉



応接室内  
窓には外側から鉄格子を取り付けている



倉庫、図書室、隊員連絡所入口



扉の裏側  
頑丈な鉄格子扉を取り付けている



サロン内



サロン出入口外扉  
内側には鉄格子扉を取り付けている



倉庫室



倉庫室扉  
合板の扉棒鍵錠を取り付けている  
(図書室、男子寝室も同様)



図書室  
窓には外側に鉄格子を取り付けている



男性用寝室



男性用バス・トイレ室

高窓にも鉄格子を外側に取り付けている



女性用寝室扉

上部に2箇所内鍵を取り付けている



寝室内

窓には外側から鉄格子を取り付けている



女性用バス・トイレ室

扉には内鍵を設置



執務室からの台所入口

棒鍵錠のみのため錠前の追加が必要



居所の裏口扉

## 10 原田 駐在員住居

【実施日時】 2007. 7. 23 17:10~17:50

【所在地】 首都リーブルビル ルイ地区

【評価】

◎ 評価・・・Aに近いB

【住居の概要】

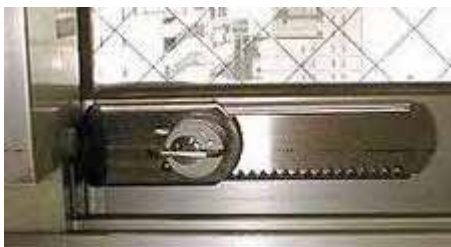
- ① 原田駐在員住居は、首都リーブルビル、ルイ地区の賑やかな飲食店街を通り抜けた、JICA 事務所からほぼ真北約 250mに位置した比較的高级住宅街にある、高級高層アパートで、駐在員は6階に居住しており、同アパートの4階には長谷川調整員家族4人が居住している。
- ② アパート前の道路は緩やかに傾斜しており、舗装は剥げ所々に穴があき、その上照明の数が少ないため、雨天や日没後の徒歩での外出時は、足元に十分な注意を要する。
- ③ アパートの1階部分は駐車場になっており、駐車場内には警備員が常駐しており、一応の出入りのチェックはしていると思われるが信頼性に欠ける。
- ④ アパート1階の出入口は正面と両サイドの3箇所あるが、正面玄関は常に締め切っており、原田駐在員は正面向かって左側の出入口を利用している。アパートは2階からが居住階となっており、ワンフロア2世帯が居住している。
- ⑤ 1階からエレベーターを利用し6階に至ると、エレベーターホール右手に住居があり、玄関扉は内側片開きの1枚板の扉で、扉の重みが原因か締りが悪いものの、扉の中央に両面シリンダー錠を取り付け、ドアスコープ、ドアチェーンも取り付けている。
- ⑥ 玄関を入ると正面がサロンになっており、サロン右手が台所で、玄関側とサロン側双方からの入り口扉があり、扉は合板の扉で棒鍵錠を取り付けている。台所からバルコニー出入用の外側片開きのガラスの扉があり、両面シリンダー錠を取り付けている。台所には引き戸式ガラスの窓が1箇所あり、窓枠側に釜錠を取り付けているが、鉄格子等の取り付けはされていない。
- ⑦ 室内にはサロンを中心に他に3室の部屋があり、サロン右手側に片側内開きの合板扉があり、左右にゲストルームがある。それぞれの入口扉は合板の扉で扉の中央に棒鍵錠を取り付け、それぞれの部屋の引き戸式のガラス窓には窓枠側に釜錠を取り付けている。
- ⑧ 左右のゲストルームの中央にバス・トイレ室があり、室内の引き出し式ガラスの高窓には上部に差込錠を取り付けている。
- ⑨ サロンのバルコニー側にはガラスの引き違いの掃き出し式窓があり、扉の窓枠側には釜錠を取り付けているが、鉄格子等の取り付けはされておらず、隣家からの侵入が懸念される。

- ⑩ サロン左手に片側内開きの合板扉があり、扉を入ると右側にトイレ室があり、正面に主寝室入口扉がある。
- ⑪ 主寝室入口扉は、他部屋の入り口扉同様内側片開きの合板の扉で、扉の中央に棒鍵錠を取り付けているが、内鍵等の取り付けはない。寝室内には右手にバス・トイレ室があり、ガラスの引き出し式高窓には差込錠を取り付けている。
- ⑫ 寝室の正面には外開きのガラスの扉があり、バルコニーへの出入口となっており、扉の中央に両面シリンダー錠を取り付けている。扉の右側にはガラスの引き戸式窓があり、窓枠側に釜錠を取り付けている。寝室内の左側にはウォークインクローゼットがあるが、室内には窓はない。

### 【問題点と改善策】

当アパートは高層階ということもあり、現在は窓等に対しては鉄格子等の取り付けはされていないが、過去に日本人居住の高層住宅が被害にあったこともあることから、住居周辺の治安情報の収集に努め、周辺で被害が発生した場合は大家と交渉し、バルコニー出入口全てと窓に鉄格子を取り付けることが望ましい。現在は以下の対応を要する。

- ① 主寝室に全ての貴重品を持ち込み、寝室扉に面付けの内鍵を取り付け、備え付けの厚地のカーテンは、室内が見えないように常に閉め切っておく。
- ② バルコニーに面した窓等に、不安であれば人が侵入した際に振動を感知する、窓用マグネットセンサーを取り付ける。引き戸式窓の下側に下部のような補助錠を取り付けるとより防備は高まる。



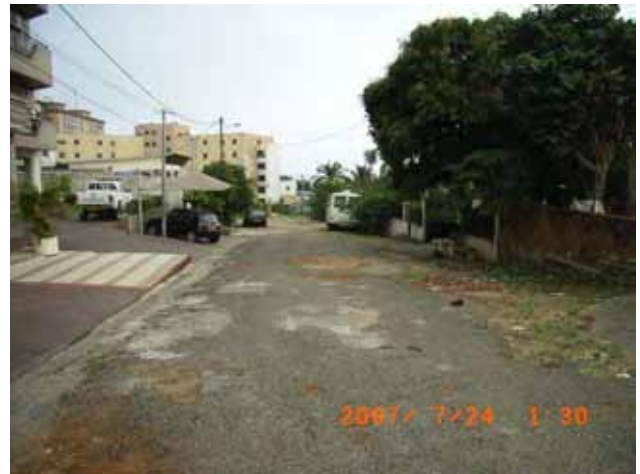
窓の補助錠

- ③ 室内に取り付けている鍵を全て取り外す。
- ④ エレベーターホール、アパート出入口周囲に不審者が潜んでいる場合も考えられるため、出入りの際は十分な注意を要する。

【住居の写真】



アパート周囲の状況



アパート前の道路状況



アパートの全景



アパート正面



側面側の通用口



車庫で勤務時間中の警備員



原田駐在員住居玄関



玄関扉の内側

両面シリンダー錠、ドアスコープ、ドアチェーン付き



サロン

隣家側から窓を外して侵入が懸念される窓



ガラス窓の釜錠



サロン側の台所入口



バルコニー出入口





バルコニーで野菜を栽培



台所側バルコニーから見た階下の状況  
壁を伝ってこない限り侵入は困難と思われる



台所の窓



ゲストルーム側



ゲストルームの窓



ゲスト用バス・トイレ室



主寝室入り口



寝室手前のトイレ室



主寝室入口扉の内側  
棒鍵錠のみ



主寝室のバルコニー出入口



主寝室内のバス・トイレ室

平成19年1月

# 安全の手引き

在ガボン日本国大使館

## はじめに

近年、海外渡航者、海外居住者の増加に伴い、日本人が海外でトラブルに巻き込まれるケースが増加しています。2005年に海外に在留している日本人の数は100万人を突破し、我が国の在外公館が取り扱った日本人に関する事件・事故は、総件数約1万6,000件、総援護人数約2万人と前年より微減でしたが、高水準で推移しています。海外渡航者の数が増加傾向にありますので、一概に海外が危険になったとは言えませんが、それでも日本人がトラブルに巻き込まれていることは事実です。

この「安全の手引き」は、当地に在留（予定）の皆様のお安全対策に少しでもお役に立てればと考え、当地生活における防犯のための注意事項や緊急事態が発生した際の対処要領等についてまとめたものです。記載内容を参考にして頂き、トラブルに巻き込まれないよう注意して快適な生活をお送り下さい。

## 【防犯の手引き】

### 1. 防犯のための基本的な心構え

日本と当地では、言語・風習・生活等が大きく異なっているため、些細なことからトラブルに巻き込まれることが予想されます。トラブルに巻き込まれないためには、皆さん一人一人が「自分の身は自分で守る」という基本認識を持つとともに、言動及び身の回りの環境に十分な注意を払って、いわゆる「スキ」を作らないことが大切です。

当地への邦人渡航者及び居住者が少数なこともあり、犯罪被害に遭遇した邦人数は多くはありません。しかし、違法な銃器が出回っており、殺人・強盗・窃盗等の一般犯罪は多数発生していますので十分な注意が必要です。また、暴動・内乱等の一因である政治経済情勢は、日々刻々、時には急激に変化しますので、新聞・テレビ等の報道に関心を持つとともに、定期的に日本大使館へ連絡されることをお勧めします。

### 2. 最近の犯罪発生状況

殺人・強盗・強姦等の凶悪事件が、夜間、白昼を問わず、都市部を中心に発生しており、犯人は銃器や刃物等で武装しています。また、自動車を狙った強盗事件や路上での強盗事件のほか、運転手と客が共謀した相乗りタクシー内での強盗事件も報告されています。

邦人の主な被害例は以下のとおりです。

年	事件概要
H14	マンションの高層階在住の邦人が、深夜に侵入窃盗の被害に遭った。 (犯人は、鍵の掛かかっていないベランダ側の窓から侵入したと思われる。)(リーブルビル)
H15	自家用車運転中の邦人が、白昼交差点で停止中にけん銃のような物で脅され現金を強奪された。(リーブルビル) タクシーを利用した邦人が、降車後に同乗していた男に暴行され現金を強奪された。(リーブルビル)
H17	夜間に自転車で走行中の邦人が、二人組の男に暴行された上、刃物で脅され現金等を強奪された。(ポールジャンティ)

H18	夕方に帰宅のためタクシーバスを利用しようとした邦人が、他の乗客達にもまれているうちに、ズボンのポケットに入れていた財布等を盗まれた（スリ被害）。（リーブルビル）
	夜間、徒歩でレストランから自家用車を駐車していた場所に向かう途中の邦人が、ナイフを所持した二人組の男に財布及び携帯電話を強奪された。（リーブルビル・ルイ地区）
	夜間、邦人が歩いていたところ背後から鞆をひったくられた。（リーブルビル）
	夕方に邦人が帰宅するためタクシーに乗車したところ、運転手と男性乗客が共謀して、邦人が所持していた鞆を奪おうとした（邦人が大声を上げ、助けを求める電話をかけたところ、タクシーが止まったので降車した。強盗未遂）。（リーブルビル）
	深夜に徒歩で外出した邦人が、二人組の強盗に遭い、強盗の一人に羽交い締めになされ、もう一人に刃物を突き付けられ、ポケットに入れていた携帯電話と現金を強奪された。（リーブルビル）

### 3. 防犯のための具体的注意事項

#### (1) 住居対策

##### (イ) 住居の選択

安全対策の第一歩は、住居の安全対策にあります。そのため、安全な地域に、防犯設備が十分に整った安全性の高い住居を選択することが重要です。しかし、ガボンにおいては、このような条件を満たす物件は極めて少ないことから、入居前に大家と交渉して防犯設備を整えたり、入居後に自ら防犯設備を補強する必要があります。また、住居の選択に当たっては、昼間帯だけではなく、街路灯の明るさや付近の状況等、夜間の状態を十分に確認してから決定することが重要です。

それでは、住居を選択する上で、具体的にどのようなことに注意しなければならないかについて考えてみましょう。

- 第1は、住居周辺の安全性です。住居周辺にスラム街等の問題地域が存在しないことはもとより、通勤・通学・買い物等の日常の生活圏が近くにあり、危険地域や人通りの少ない道路を通行する可能性の低い地域

が望ましいと言えます。当国においては、外国人が多数居住する地域を、独立家屋よりも集合住宅・高層住宅が密集する地域をお勧めします。

- 第2は、建物の安全性です。一般的に高層住宅→集合住宅→独立家屋の順に安全性は落ちると言われています。独立家屋の場合、高い塀は侵入者に対する心理的抑止効果はあるものの、これによって侵入を完全に防ぐことはできず、一旦侵入されてしまうと外界から遮断され、却って危険な状態を招きます。また、住居の出入口や窓の周辺は、明るく人目に付きやすい場所にある方が、侵入者に対する心理的抑止効果があります。駐車場は、建物と同一敷地内にあり、道路と隔離され、部外者が簡単に入れにくい構造になっていることが望ましいと言えます。
- 第3は、防犯設備の設置状況です。住居への侵入は、ほとんどが出入口のドアや窓ガラスを破壊してなされています。これを防止するためには、出入口のドアの鉄製化や窓等全ての開口部への鉄格子の設置が望ましいと言えます。上層階でも窓から侵入された事例がありますので安心はできません。鉄格子については、火災や侵入者があった場合に逃走口として使用できるよう、内側から開閉できる錠の付いたものが望ましいでしょう。また、侵入警戒センサーや防犯ベル等の警報機器も有効と言えます。
- 第4は、避難室の設備があることです。万一侵入された場合でも、人的被害を最低限に押さえるためには、侵入者と接触しないことです。ですから、寝室となる部屋の窓には鉄格子が設置してあり、ドアは鉄製の頑丈な材質で、錠・門・のぞき窓等が設置されていることが望ましいと言えます。
- 第5は、警備員の配置です。当国では、押し込み強盗による被害が多いことから、信頼のできる警備員を雇う必要があります。外国人用の集合住宅には、ほとんど警備員が配置されていますが、独立家屋の場合は、居住者が個別に雇わなければなりません。警備員といっても、専門的な教育を受けた者は希であり、100パーセント信用することは出来ませんが、既に警備員が配置されている住宅の場合は、車や人の出入管理が徹底されているなど、ある程度信用できる警備体制の取られている物件を選択することも重要なポイントです。新たに警備員を雇う場合は、警

備の方法等について徹底して指導を行い、問題のある場合はその都度指摘して改善させるなど、妥協しないことが重要です。

以上の各項目について総合的に判断するため、十分な検討時間を費やし、よりよい住宅を選択して下さい。また、事前に大家と積極的に交渉して、防犯体制の整った住居にすることが大切です。

#### (ロ) 入居後の防犯対策

入居後は、次のことに注意して下さい。

- 第1は、鍵の取り替えです。賃貸住宅の場合、以前の入居者等、第三者が合鍵を持っている可能性があります。また、大家や不動産業者と言えども100パーセント信頼できるとは限りません。最低限、入居後に錠を取り替える必要があるほか、門等の補助錠を取り付ける必要があります。また、鉄格子が設置されていない窓には、中央部に門の設置したり、副木等をするなどして、侵入されるまでの時間を稼ぐ措置をとることも必要です。錠の付いているドアには、面倒であっても全てに鍵をかけることが防犯上大切なことです。防犯に完璧はありません。面倒と思わずに出来るだけの対策を取って下さい。
- 第2は、緊急用具の配備です。避難室となる寝室には、電話を引くことはもちろん、警笛・懐中電灯・非常時の脱出用縄ばしごやロープ等を置いておくことも必要です。ロープは、1メートルごとに玉を作っておくと、比較的安全に降りることが出来ます。また、最低限の護身用具として、棒等をベッドの下に置いておくことも一案です。ベッドやタンス等をドアの近くに置いて、バリケードを築ける態勢を取っておくことや、ベッドを窓から離すことも防犯上有効です。
- 第3は、付近住民との良好な人間関係の醸成です。もし、不幸にも犯罪被害に遭った場合に助けてくれる可能性があるのは、警備員や隣人です。また、付近住民との関係が悪化すれば、同住民による犯罪の手引き等の危険性が増大する可能性も考えられます。日頃からできる限り良好な関係を醸成し、無用なトラブルを起こさないように心掛けることが大切です。
- 第4は、転居する勇気を持つことです。一旦入居してしまうと余程の不便を感じたり、重大な問題が生じない限り、転居することは面倒に感



じるものです。しかし、周辺の生活環境や防犯設備に不安不備を感じる  
ところがあれば、勇気を持って積極的に転居することが大切です。

## (2) 外出時の対策

### (イ) 一般的事項

現金や貴重品は、ポケットに入れるなど目立たないように携行して下さい。必要以上の現金や貴重品は持ち歩かないようにし、目立たない服装を心掛けることも大切です。タクシー降車時や市場等では、紙幣を所持していることを周囲に見られないように努めて下さい。また、バックを持ち歩く場合は、体の前で抱えるなど引ったくり被害に遭わないように気をつけて下さい。

夜間に徒歩で外出する行為は、犯罪被害に遭う可能性が高く、危険です。また、昼間であっても裏通りを散策することは避けた方が無難です。

### (ロ) 車による外出

#### ○ 乗降時

一番狙われる時です。車の乗降時は、付近の状況をよく観察し、不審な人物が潜んでいないか十分確認した後、素早く行動して下さい。少しでも不審に感じた時は、乗降をやめて様子を見ることにしましょう。

#### ○ 駐車時

車の盗難や車内においた荷物の盗難に十分気をつけて下さい。車内に荷物を残した場合、ガラスを割られて盗まれる可能性があります。荷物は、トランク等、車外から見えない場所に保管して下さい。

#### ○ 走行時

走行中は、窓を全開にせず、ドアをロックしシートベルトを確実に着用して下さい。信号待ちで停車中、ドアを開けられて車内の荷物を盗まれたり、車から引きずり出されて、車ごと盗まれた例もありますので気をつけて下さい。また、信号待ちで停車する時は、その場から何時でも脱出できるように車間距離を取って停車するように心掛けて下さい。運転中は、常にルームミラー等で後方を確認し、尾行してくる車がないか注意して下さい。もし、不審に感じたら安全な場所に停車するか、不規則な速度で走行し、相手の動きを確認することも一つの方法です。車を尾行してきた強盗団に家の中に押し込まれ、財産全てを強奪された例も

あります。なお、当国の運転マナーは非常に悪く、高速での走行や無謀運転が多いので、防御運転を心掛けて下さい。

### (3) 生活上の対策

#### (イ) 使用人の雇用

使用人の善し悪しで、住居の安全が左右される場合があります。使用人の中には、主人の不在中に犯罪者の手引きをする者もいますので、雇用の際には十分注意しなければなりません。信頼できる人からの紹介や、身元のしっかりした人又はその家族、親族を雇うのも一つの方法です。雇い入れる場合には、身分証明書等で身元を確認するとともに、雇う前に無犯罪証明書を入手し、犯罪歴がないことや多額の借金を背負っていないこと等を確認することが必要です。

使用人との関係では、常に一定の距離を置いて接し、言うべきことは言い、やるべきことをやらせることが大切です。必要以上に厳しくする必要はありませんが、意に満たない時には、躊躇せずに指摘しなければなりません。適当な報酬を与えるとともに、貴重品や現金を放置しない等、盗難の機会を排除するように心掛けて下さい。

#### (ロ) 電話の設置

固定電話の設置は、電話局の通信インフラの不備の問題から時間を要しますが、携帯電話は容易に入手できます。通話状態も比較的良く、通常の使用には困りません。万一の備えとして、携帯電話に日本大使館、警察、消防等の緊急連絡先を登録しておくことなどをお勧めします。

防犯対策上、受けた電話には自分から名乗らない、住居の所在地を安易に教えたりしないなど対応には十分注意して下さい。また、盗聴の可能性のあることを念頭にした通話を心掛けて下さい。

#### (ハ) 貴重品の保管

貴重品は、必ず鍵の掛かる場所に保管して下さい。非常事態時に持ち出すことを考えると、1カ所にまとめた方が効率的ですので、出来れば寝室に置くことをお勧めします。他方、分散すれば、被害を最小限に押さえることができるという考えもありますので、それぞれ実状にあった方法を選んで下さい。いずれの場合でも、万一盗難にあった場合に備え、貴重品リストを作成しておくことをお勧めします。

#### (4) その他の注意事項

##### (イ) 犯罪被害にあった場合の対応

強盗等にあった場合、常に念頭に置いていただきたいのは、相手はナイフ・銃器等の凶器を持っているということです。また、警察官の目前で被害に遭ったとしても、警察官が助けてくれる可能性は低いということも認識して下さい。当地では、日本と同様に銃器の所持携帯は禁止されていますが、多くの犯罪で、違法な銃器が使用されています。しかし、これを取り締まる警察官側の装備が十分ではないのが現状です。したがって、被害に遭わないように危険な場所や夜間の外出は避けるとともに、住居の防犯対策を心掛けることが大切です。不幸にも被害に遭った場合には、無抵抗に徹するなど生命の安全を第一に考えて下さい。強盗は、金品を手に入れることが目的であり、その目的が達成できれば、命まで奪う危険を犯すことは少ないようです。住居内に押し入られた場合には、犯人との接触を避けるため、速やかに避難室に逃げ込み、家具やベット等でバリケードを築いて侵入を防ぐように心掛けて下さい。

##### 【緊急時に使う言葉】

- 泥棒 = Voleur ヴォルール
- 助けて = Au secours オ・スクール
- 逃げろ = Fuyons フィヨン
- 危ない = Danger ダンジェ

##### (ロ) 在留届、帰国・転出届等の提出

同一渡航先に3ヶ月以上滞在する予定の方は、旅券法の規定により、滞在先の在外公館に在留届を提出することが義務づけられています。在留届は、法に定めがあるから提出しなければならぬと言うだけではなく、皆さんが安心して海外生活を過ごすための大使館からのサポートを受けやすくするためのものです。大使館は、在留届により管轄国における邦人の方々の所在等を把握していますので、滞在期間の長短に関わらず、到着されましたら出来るだけ早く届け出て下さい。

また、在留届提出後、記載事項に変更があったり、帰国・転出する際にも届け出を行って下さい。住所の変更届がないと、いざという時の連絡が受けられなかったり、また、帰国したまま連絡されないと、緊急事態の時

の安否確認に時間を取られ、実際に滞在されている方々の安否確認が遅れることにもなりかねません。

#### (ハ) 旅券（パスポート）の管理

旅券は、単なる通行証ではなく、外国においては公的な身分証明書であり、国籍の証明書として「命の次に大切なもの」と言っても過言ではありません。貴重品同様の取り扱いを心掛け、不必要に他の者に渡したり、放置しないように気をつけて下さい。もし、盗難被害に遭ったり紛失した場合には、直ちに警察に届け出て、盗難又は紛失証明を発行してもらい、大使館で旅券の再発給又は帰国のための渡航書の発給手続きを行う必要がありますが、確認作業が必要なため、この手続きには時間を要します。万一に備えて、旅券番号、発行年月日、交付地等を控えておくようお勧めします。

#### (ニ) 海外旅行傷害保険の加入

当地では、日本や先進国と異なり、事件・事故等による大けがや重病にかかった場合に受けられる治療に限界があり、万一の場合、ヨーロッパ等への緊急移送を考えなければなりません。このような場合に備えて、緊急移送を担保した海外旅行傷害保険に加入しておくことをお勧めします。

### 4. 交通事情と事故対策

当地における公共の交通手段としては、タクシーとバスがあります。タクシーは、原則として相乗りです（但し、大きなホテルにはハイヤーも待機しています。）。運転手と客が共謀した相乗りタクシー内での強盗事件も報告されていますので、昼間でも貸し切りにした方が無難です。相乗りタクシーに乗車する場合には、男性客のみが既に乗車しているタクシーは避け、女性、子供、あるいは老人が乗車しているタクシーを選んだ方が無難です。夜間は、貸し切りにしても犯罪に巻き込まれる可能性が高くなりますので、タクシーの利用は避けた方がよいでしょう。長期間生活する場合、車を購入して自分で運転をするか、信頼できる運転手を雇うことをお勧めします。また、運転手付で車を貸すレンタカー業者もあります。路線バスが運行されていますが、利便性・治安の面等からもお勧めできません。

また、交通事故が多数発生しています。その主な原因は、道路事情が悪い

にもかかわらず、スピードを出しすぎたり、急に車線変更する等の乱暴な運転が多いためです。邦人の方が交通事故に遭ったり、死亡した例もありますので十分注意して下さい。当国人が多数居住する地域等で交通事故を起こすと、過失の有無にかかわらず、多人数に取り囲まれて身に危険が及ぶ可能性もあります。さらに、当国人相手の事故処理は、相手に過失があってもこちら側が悪く処理されるおそれがあります。これらのことを認識して安全運転を心掛けて下さい。

なお、車にわざと接触してきて怪我をしたように装い金銭等を要求するいわゆる当たり屋とみられる事案も報告されていますので、ご注意下さい。

## 5. テロ・誘拐対策

多くの方は、自分自身が海外でテロや誘拐事件に巻き込まれるなどとは思っていません。しかし、未曾有の大惨事となった2001年9月11日の米国における同時テロにおいては、多数の日本人も被害者となりました。日本人の海外渡航者数の増加や、複雑な世界情勢を背景にして、日本人にとってもテロは身近な脅威になっています。実際、世界各地でテロ組織による爆弾事件や誘拐事件が発生しており、日本人が巻き添えになる例も跡を絶ちません。

犯人らは、犯行の数週間から数ヶ月前に、対象者（物）の選定、下見等を入念に行い、組織的に周到な計画を立て、犯行に移すと言われています。前述しました住居対策や外出時の対策を徹底することはもちろんのこと、付け入る隙を与えないという意識を持ち、犯行を未然に防止することが大切です。

### (1) 現状を認識する

海外で生活する全ての邦人は、「テロ・誘拐のターゲットである」ということを認識する事が重要です。

### (2) 警戒を怠らない

住居・職場・外出先等のあらゆる場所で警戒を怠らないことが、この種の犯罪を未然に防ぐ鍵と言えます。特に、長期間在留していると生活に慣れが生じますが、この「慣れ」が一番危険であるということを肝に銘じて下さい。

### (3) 兆候を見逃さない

この種の事件において犯人は、最初に複数のターゲット（人又は物）を選定します。そして、安全性・確実性・容易性等の評価値を総合的に検討した

上で、最終的なターゲットを決定します。ターゲットに決定しても、直ちに行動に移すわけではなく、更に調査を行い、その結果に基づいて実行日時、手段、方法等を調整するのです。

このように、実行まで相当の調査期間をおいていますから、調査段階で、犯人側にこのターゲットへの実行は困難であるということを認識させることが重要です。そのためには、日頃から自分の周囲のちょっとした変化を見逃さないよう、常に警戒心を持って生活しなければなりません。万一兆候を感じた時には、直ちに家庭や職場における警戒を強化し、生活パターンを変える等の対策をとることが必要です。

#### (4) 情報を収集する

最新のテロ・誘拐事件に関する情報を入手するとともに、これらの事件を企てる反政府組織等の情報を収集する努力が必要です。

#### (5) 行動を予知されない

通勤時間・コース・日常の行動が一定の場合、これらの犯罪のターゲットとして選定されやすくなります。行動パターンを適宜変更することが大切です。

## 【緊急事態マニュアル】

### 1. 平素の心構え・準備

#### (1) 連絡体制の整備

(イ) 旅券法では、同一渡航先に3ヶ月以上滞在する場合には、「在留届」の提出を義務づけています。大使館は、この届け出によって初めて在ガボン日本国大使館の管轄区域内の邦人の方々の居住を認知することになります。したがって、この届け出がなければ、緊急事態が発生したり、或いは不測の事件事故に巻き込まれたりした場合であっても、大使館としては適切な援護活動がとれないおそれがありますので、入国後速やかに「在留届」を提出して下さい。また、滞在期間が3ヶ月に満たない場合であってもできる限り御連絡下さい。

(ロ) 大使館では、皆様から提出していただいた「在留届」に基づき、「緊急連絡網」を作成し、緊急事態発生時に備えています。緊急事態発生時には、大使館から皆様へ状況等を通報しますので、引越し・転勤等で電話番号等に変更があった場合には、速やかに当大使館領事担当官まで御一報下さい。

(ハ) 緊急事態は、いつ起こるか分かりませんので、事態発生時の家族間の連絡方法等について、あらかじめ決めておいて下さい。また、外出時は、行先を家人等に明らかにするように平素から心掛けるとともに、一時帰国や旅行等で長期間不在になる場合には、あらかじめ大使館に御連絡下さい。

(ニ) 緊急事態発生の場合には、皆様の安全確保のため大使館から緊急連絡網を通じて情報及び必要な対策等を連絡いたします。電話回線等が使用できない場合は、FM放送機やNHK海外放送等を通じて連絡することがありますので、短波・FM受信可能なラジオを準備しておいて下さい。

○ 非常事態が発生した場合の緊急FM放送（87.5MHz）

※ 受信可能地域は、大使館から半径最大50kmの地域

○ ラジオジャパンNHK海外放送（21630kHz）

○ RADIO FRANCE INTERNATIONAL(フランス国際放送)（104.00MHz）

○ AFRICA NUMERO 1（94.4MHz）

○ 国営ラジオRTG1（88.7MHz）

#### (2) 一時避難場所等

(イ) 外出中に緊急事態等に遭遇した場合のとりあえずの避難場所について常日頃から検討しておくことが重要です。自分が勤務先・通勤途上・自宅等にいる時に、どのような事態に巻き込まれる可能性があり何処へ避難するかなど、いくつかのケースについて検討しておいて下さい。

(ロ) 緊急避難先

(a) 事態の状況によっては、緊急避難先への集合をお願いすることがあります。緊急避難先は、当大使館になっています。位置を確認し、複数のルートを検討しておいてください。

(b) 車両を保有していない人は、車両を有する近隣者と平素から連絡を密にし、必要な場合は同乗させてもらえるように相談しておいて下さい。

(c) 当国においては、道路事情及び周辺諸国の治安事情等から陸路での国外脱出は困難ですが、比較的安全な国内の都市への移動を余儀なくされた場合も考えられます。日頃から自動車整備に心掛け、ガソリンは常時満タンに近い状態にしておくとともに、予備タンクを備えておくといいでしょう。

(3) 非常用物資の準備等

(イ) 緊急事態発生時には、早急に国外へ脱出しなければならないことがあります。立ち上がりが遅れると国外脱出の機会を失いかねません。たくさんの荷物を持ち出すことは困難ですが、最低限約10日間分の身の回りの物や貴重品（現金・クレジットカード・貴金属・有価証券など）をスーツケース1個程度にまとめておき、迅速に行動できるようにしておくことが大切です。

(ロ) 旅券は、外国で皆様の身分を明らかにする唯一の証明書となるものです。旅券最終ページの所持人記載欄を確実に記載し、安全な場所に保管しておくとともに、有効期限が6か月以上あることを確認しておいて下さい。

(ハ) 当国にて滞在許可証を取得している方の場合には、出国査証を取得する必要がある、さらに再入国をするためには再入国査証も必要になります。通常、当該手続に1週間以上の時間を要しますが、緊急事態発生時等には、それ以上の日数を要し、予定の日時に出国できなくなるおそれがあります。したがって、数次の出入国査証を事前に出入国管理総局（D. G. E. I）で取得し、更新するよう心掛けて下さい。



(二) 当国通貨CFAフランは、CFAフラン圏以外では他の通貨に換金できませんので、家族全員が10日間くらい生活できる程度の外貨（ユーロは当国の主要な商店等でそのまま使えます。）等とともに、クレジットカードを準備して下さい。

(ホ) 緊急事態発生時には、商店が閉鎖されたり、閉鎖されなくとも物が不足したり、買い物に行けない状態になることが十分予想されます。10日間くらい生活できる程度の生活必需品を常時自宅に確保しておくことが重要です。

備蓄物資のチェックリストは、別添1のとおりです。

## 2. 緊急時の対処要領

### (1) 心構え

緊急事態発生時等には、流言飛語に惑わされ不必要に事態が拡大・混乱することがあります。過去のザイール（現コンゴ民主共和国）暴動の際には、早く逃げようとした外国人の多くが犠牲になり、家で経過を見守っていた人が無事救出されたという例もありますので、平静を保ち、大使館と連絡を取りながら慎重に行動して下さい。

なお、過去のケニアのクーデターの際には、邦人旅行者が状況を見ようとしてホテルの窓から覗いた際に流れ弾に当たり即死したという例もありますので、銃撃戦が行われている状況にあるときは、不用意に窓の方へ近づかないで下さい。

### (2) 情勢の正確な把握

緊急時には、事案の状況をできる限り正確に把握し、冷静に判断することが大切です。大使館からの情報のほか、新聞・ラジオ・テレビ等報道からの情報収集に皆様各自が心掛けて下さい。

### (3) 大使館への通報等

(イ) 緊急事態発生時等には、皆様の所在・安否確認を行います。皆様の所在が不明ですと、調査に時間を要し、他の邦人の方々に御迷惑をかける心配もありますので、外出中の場合あるいは国外等への長期旅行中で緊急事態の発生を知った場合には、皆様の方から、当大使館又は外務省領事局海外邦人安全課（81(国番号)－3－5501－8160（同課直通）、81

(国番号)－3－3580－3311 (外務省代表電話)) もしくは近隣の日本国大使館に御連絡下さい。

(ロ) 他の邦人の方に対して貴重と思われる情報については、大使館へ御連絡下さい。自己・家族・他の在留邦人の生命・身体・財産に危害が及ぶおそれのある事象に関する情報は、断片的な情報でも結構ですので、素早く御連絡下さるよう御協力をお願いします。

(ハ) 緊急事態発生時等には、お互いが助け合って対応にあたる必要があります。皆様に種々の御助力をお願いすることも有りますが、その際には御協力をお願いします。

#### (4) 避難方法等

(イ) 緊急事態があらかじめ予測できる場合や、事態が悪化し、鎮静化に相当期間を要すると判断される場合には、大使館と連絡を取りながら、定期商用機が運行している間に(緊急事態が発生すると空港が閉鎖される可能性が高い。)、早期に国外脱出して下さい。その際は、空港関係者や航空会社等と事前に連絡を取り、「空港へ行ったが既に閉鎖されており、そこから身動きが取れない。」などという事態にならないよう注意して下さい。

個人もしくは派遣先の会社等の判断により、自発的に帰国、或いは第三国へ避難する場合は、その旨を大使館へ連絡して下さい。

(ロ) 事態が極度に悪化し、大使館が「退避勧告」を発出した場合には、可能な限り早急に国外へ退避して下さい。一般商用機の運行が中止された場合や満席で座席が確保できない場合は、臨時便・チャーター便を手配するなどして退避することもあり得ますので、大使館の指示に従って下さい。(チャーター便等を利用するに当たっては通常は片道エコノミー正規料金の支払いが必要になります。ただし、後払いも可能です。)

(ハ) 事態が急速かつ極度に悪化し、皆様が自宅にいることが危険と大使館が判断した場合、もしくは一般商用機の運行が中止されたためチャーター機による避難方法しかないと大使館が判断した場合には、皆様に大使館への避難・集合を呼び掛ける場合があります。大使館の指示に従い、安全な方法で避難して下さい。この際、可能であれば、携行荷物と一緒に自宅等に備蓄している食料品を持参して下さい。

## おわりに

当地における防犯対策及び緊急事態対策について、基本的なことを記載しましたが、これが全てではありません。

防犯対策は、生活のあらゆる場面において、自分の安全は自分で守るという基本原則を忘れないことが重要です。また、緊急事態発生に際しては、平素から事前対策が大切です。在留邦人の方々一人一人が緊急事態が発生した場合には、どの時点で国外脱出をするのか、メイン道路が封鎖された場合どのような経路・手段で大使館・空港等に集結するかなど、対処方法についてシミュレーションを立てておくことが大切です。そして、緊急時には、冷静な判断の下、大使館と連絡を取りながら慎重に行動するよう心掛けてください。

何か困ったことがあった場合には、皆さんの海外生活での不安を少しでも解消するお力になれると思いますので、遠慮なく日本大使館にご相談下さい。

**[緊急事態に備えてのチェックリスト]**

- 旅券・出入国査証
- 現金（ユーロ等外貨を含む）・クレジットカード
- 水1人1日1.5リットル10日分
- 米、乾物、缶詰、インスタント食料等の長期保存可能な食料品
- 味噌、醤油、塩、砂糖等の調味料
- 炊飯用ガスボンベ、固形燃料等の炊事用具
- 紙製食器、割り箸、缶切り、栓抜き、ナイフ等の簡易食器等
- 車両用予備ガソリン
- ライター、マッチ
- ろうそく、強力懐中電灯（予備電池を含む）等の照明器具
- 短波ラジオ（予備電池を含む）
- タオル、石鹸、歯磨きセット等の洗面用具類
- 常備薬、絆創膏、消毒用石鹸等の医薬品
- 水筒
- 衣類、着替え（行動しやすく、ことさら人目を引くような華美でないもの）
- 靴（はき慣れた、行動に適したもの）
- 当国及び周辺諸国の地図
- 可能ならば寝袋、毛布等の寝具
- その他緊急事態の際に必要と思われるもの

## 【 主 要 連 絡 先 】

○ 在ガボン日本国大使館

電話 73-22-97 / 73-02-35 F A X 73-60-60  
休日・時間外の緊急用 06-22-19-31  
領事担当官の携帯電話 06-22-19-26

○ 緊急時の連絡先

憲兵隊 73-11-58 (24時間対応) / 73-20-38  
警察(緊急展開部隊)(110番) 177 / 72-00-37  
リーブルビル市警察 76-09-50  
司法警察 72-09-51 / 72-00-34 (殺人、強盗、窃盗等)  
消防 18  
救急車 13-00

○ 病院

Polyclinique EL-RAPHA (総合病院) 44-70-00

○ 入国公安委員会 (滞在許可等)

D. G. E. I 76-24-24 / 73-15-73 / 73-20-29

○ ホテル

インターコンチネンタル・オクメパラス 73-20-23 / 73-26-19  
メリディアン・レンダマ 76-61-61  
アトランティック 73-24-48 / 73-24-50

○ 航空会社

エアーフランス 79-64-64 / 79-64-49  
エアーモロッコ 73-10-25

ガボン国  
青年海外協力隊  
防犯マニュアル

2007. 3

JOCV ガボン調整員事務所

はじめに

皆さんが赴任するガボン国内の情報はまだ不十分な状態です。決して十分ではない情報と知識ですが、これまで収集した情報を提供しますので、テロ、犯罪の被害者にならないよう頭の中に入れて意識を改めて下さい。

まずここは日本ではないという「意識」、すなわち海外モードにしておく必要があります。海外モードとは自分の身は自分で守る心構えを持つこと。そして日本とは異なる文化の違い、宗教の特色、タブーがあるということです。体調を崩す要因、気象条件、時差、食習慣、精神的ストレスとすべてそろっています。

パスポート（旅券）、ビザ（査証）、予防接種（黄熱病）証明書は確認しましたか。

皆さんが出発して最初にトラブルに遭うリスクは日本を出発して航空機の乗り換えを行うパリの空港です。空港の税関エリアを出たところからはスキをを狙われています。スリ、置き引き、ひったくりでしょう。空港の税関を出た直後、両替所付近で荷物から目を離れたときを狙っているので特に注意してください。

もしもトラブルにあったらまず警察に被害届をそしてJOCV事務所への連絡等必要な所定の手続きを迅速にしましょう。

ガボン共和国の防犯マニュアルは①海外安全の手引き、②緊急事態対応マニュアル、③交通安全の手引きの3点と別添から構成されます。

ガボンに人口は約120万人、そのうち25%あまりは外国籍のナイジェリア、ガーナ、カメルーン、マリ、セネガル。ベナン、トーゴ、ギニア、コンゴの人々、そしてこれらの人々以外に少数ですがブルキナ、象牙海岸、サオトメ、チャド等多数のアフリカ人が暮らしています。赴任される皆さんの周りはガボン人だけではありません。

別添の首都リーブルビル市内危険地図はこれまでの犯罪事件のあった場所を示しています。実際の犯罪・事故記録で新聞等から抽出した2005年の第3四半期と第4四半期のを別添しました。これは新聞に出たものだけで、新聞に出ない事件が多数あること頭に入れて、リスクを回避するようにしてください。

特にモンブエ、ガルティエール、ココティエ、アベア、アチミンチョス、ソテガ、アケブレネー、デリエール・ラ・プリゾン等のカルチェには、夜間21時以降立ち入らないようにしてください。複数人であっても危険です。

市中では3月以降、タクシー、乗り合いバスの車両を主に検問が至る所で実地されています。乗客もすべて身分証明証の提示を求められます。常に身分証明証の携帯が必要です。タクシー運転手が乗客とぐるになって、強盗に早変わりするケースも発生しています。夜間は出歩かないようにしましょう。

## ① 海外安全の手引き

ガボン共和国の平成17年9月現在の治安情勢をテロ情勢、一般治安情勢、邦人に対する情勢の概要です。

### テロ情勢

- ・テロ組織・テロ支援組織のが国内に存在する可能性は低く、テロ事件発生 of 蓋然性も低いと見られます。
- ・現時点では反政府勢力も暴力による政権奪取を目的とする組織は認められぬ、言論あるいは政治活動を通じた政府批判の範囲に留まっています。
- ・今後、経済状況の悪化を原因とした社会的不安の増大と国境管理の不備による是正がなされなければ、国外からの武器の流入と過激派武装テロ集団が浸透する可能性は否定出来ません。

### 一般治安情勢

- ・犯罪は、銃器等武器使用による殺人・強盗・傷害・暴行事件が首都で恒常的に発生しており、軍及び警察が常駐する国際空港近傍においても白昼堂々と銃器使用強盗事件が発生するなど凶悪化とその増加に歯止めがかからない状況です。
- ・経済の沈滞（失業率増加、貧富の格差拡大）と外国人の流入などにより治安破格実 to 悪化しつつあり、政府系日刊紙においても地方都市の凶悪犯罪の発生報道が掲載されておりその拡大が懸念されています。
- ・政府は治安悪化に向けた各種対策に取り組んでいますが状況は改善しているとは言えません。

### 邦人に対する情勢

- ・在留邦人及び本邦企業が少ないという点で低いと考えられてきましたが、上記の各種情勢及び隊員に派遣開始による邦人の増加状況によっては脅威度が上昇する可能性も考えられ、今後は不透明な状況です。
- ・参考にこれまでの邦人に対する犯罪の過去は  
窃盗・強盗事件
  - ・平成13年：高層マンションに2名侵入未遂被害
  - ・平成14年：高層マンションに侵入盗被害
  - ・平成15年：自家用車運転中の邦人白昼交差点停止中に拳銃のようなもので脅迫去れ現金強奪。死亡事故
  - ・平成11年：オウエンド市にて交通死亡事故

### 隊員関連

- ・隊員がカウンターパートと同乗したタクシーで、カウンターパート降りるため開けたタクシーのドアに後続車が接触する事故がありました。



## ② 緊急事態対応要領

- 1 ガボン緊急連絡網と緊急連絡カードを準備しますので最新版を身近に用意する。
- 2 携帯電話を常に使用できる状態にしておく。
- 3 いつでも調整員まで電話をする。
- 4 調整員が不在の場合は大使館の領事または医務官に連絡する。普段大使館と連絡を取る場合は調整員を通して連絡する。場合によっては大使館から直接隊員に状況を聞くことがある。
- 5 ガボン事務所から日本国大使館および本部事務局、健康管理センターに通報する。
- 6 事務所には衛星電話を設置するため、国内の電話が不通となっても各部署と連絡を取ることが可能。陸路がないポートジャンティには衛星電話を設置予定。

### 事故・傷病時：

- 1 調整員に連絡する。病院等の手配が必要であれば手配する。  
急を要しない医学的な相談事項に関しては個人情報の取り扱いに注意して、JOCV プルキナファソ事務所の健康管理員、日本大使館医務官、本邦の健康管理センターに相談する。
- 2 重症の場合は本部健康管理センター、日本大使館医務官と連絡を取りつつ緊急移送が必要か否かを判断する。（判断は当地の医師と SOS 緊急移送会社の医師との間で状況により決定される。）緊急移送の判断がされた場合は指示に従い手配等を進める。（移送はフランス・日本が基本となる。）

### テロ・政変等の緊急事態：

- 1 テロ・政変等が発生した場合は第一に自身の安全を確保する。その後調整員に連絡する。調整員は日本大使館とも連絡を取り必要な指示をおこなう。
- 2 調整員は直ちに事務所に移動し、全隊員の安否確認を行う。確認後、JICA本部および日本大使館に報告する。また、状況についても合わせて報告し、更なる対応が必要か検討する。
- 3 一時退避を考えたの行動
  - (1) パスポート、現金、着替え等最小限のものを用意する。
  - (2) 自宅にて待機する。不要不急の外出は控える。自宅周辺の状況に注意する。異変があれば直ちに調整員に連絡する。
  - (3) さらに状況が悪化した場合には、集団での移動を考え住居毎に集合する。
  - (4) 事務所公用車が各住居に迎えに行く。その後、事務所にて待機。なお、既に交通

が遮断されている場合には各住宅での待機を継続する。

- (5) 国外退避については関係者と行動を共にする。30名程度での行動となるため、個人的な理由による行動は慎むこと。なお、第一段階の避難先はJOCV事務所または第二段階の避難先である日本大使館となる予定です。

連絡先：

JOCVガボン事務所	電話：	(241) 443345
	FAX：	(241) 443346
北島調整員	電話：	(241) 445936
	携帯：	(241) 07329133
長谷川調整員	携帯：	(241) 07458436
在ガボン日本国大使館	電話：	(241) 732297
	FAX：	(241) 736060
JICAフランス事務所	電話：	(33) -1-40200421
	FAX：	(33) -1-40209768
青木所長代理	携帯：	(33) -683639320
JICA本部健康管理センター	電話：	(81) -3-5352-5585
安全情報T	電話：	(81) -3-5352-5528
24時間待機室	電話：	(81) -3-5352-8636
	携帯：	(81) -90-2450-3287

\* 緊急事態の対応は無理な行動は慎み、落ち着いて行動することが大切です。

### ③ 交通安全の手引き

ガボンでは二輪車貸与、自転車貸与を行う予定は当面ありません。街中も自動車を中心に二輪車、自転車はほとんど走っていません。

市内の公共交通機関は乗り合いタクシー、公共バスはありますが路線及び台数は限られており、乗り合いタクシーが主な交通機関となります。

海外交通安全ハンドブックボランティア用の道路環境、交通環境、交通行動よく読んでください。

ガボンに限りませんが、特に顕著な状況をお話しますと

道路状況：一部を除いて穴や窪みが多い。従ってそれを避けようとジグザグ運転をする。

都市中心部でも脇道になれば、条件はより悪い。

：雨量が多いため道路脇の側溝が深い。側溝に落ちただけで大けがをする可能性有り。

交通環境：信号を守らない。特に右折時の脇信号は赤でも守らず侵入してくる。

：右折車は前の車に後続せず、その車を追い越して右折する車が多い。

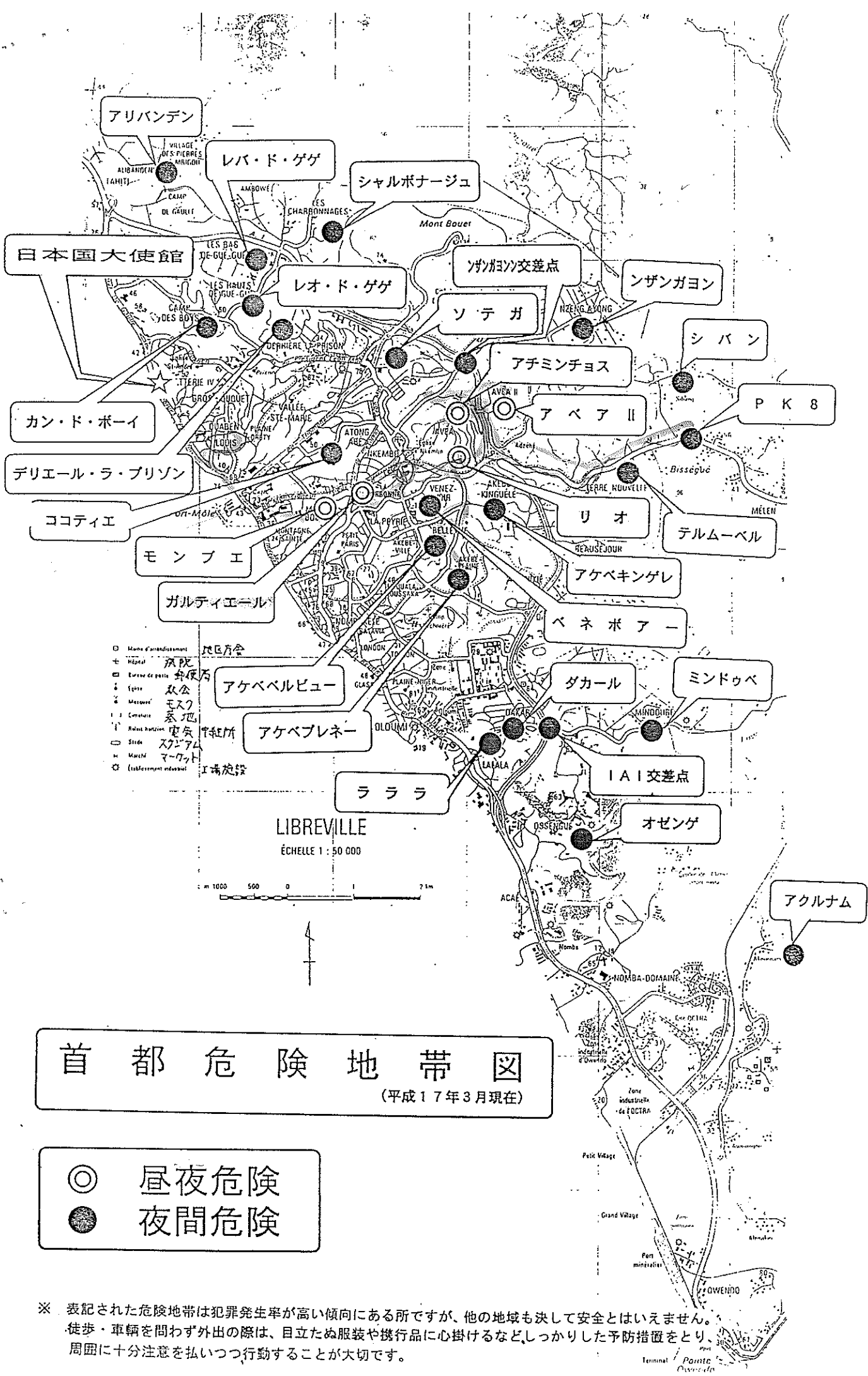
横断する直前の車だけでなく後続車にも注意する。このことでの歩行者と車の事故が圧倒的に多い。

交通行動：周りの人々の交通行動の特徴を早く理解し、それに対応した行動をとる。歩行者優先ではなく、車両優先であることを認識し、車が止まってくると絶対に考えない。赤信号で停車している横を信号無視で通過する車も多い。

以上

別添資料：

- ・ 首都危険地帯図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1枚



アリバンデン

レバ・ド・ゲゲ

シャルボナージュ

日本国大使館

レオ・ド・ゲゲ

ソザンガヨの交差点

ソザンガヨ

カン・ド・ボーイ

デリエール・ラ・プリソン

ソテガ

アチミンチョス

シバン

P K 8

ココティエ

モンブエ

ガルティエール

アベアII

リオ

テルムーベル

アケベキングレ

ベネポアー

アケベベルビュー

ダカール

ミンドウベ

アケベプレネー

ラララ

IAI交差点

オゼンゲ

LIBREVILLE  
ÉCHELLE 1 : 50 000

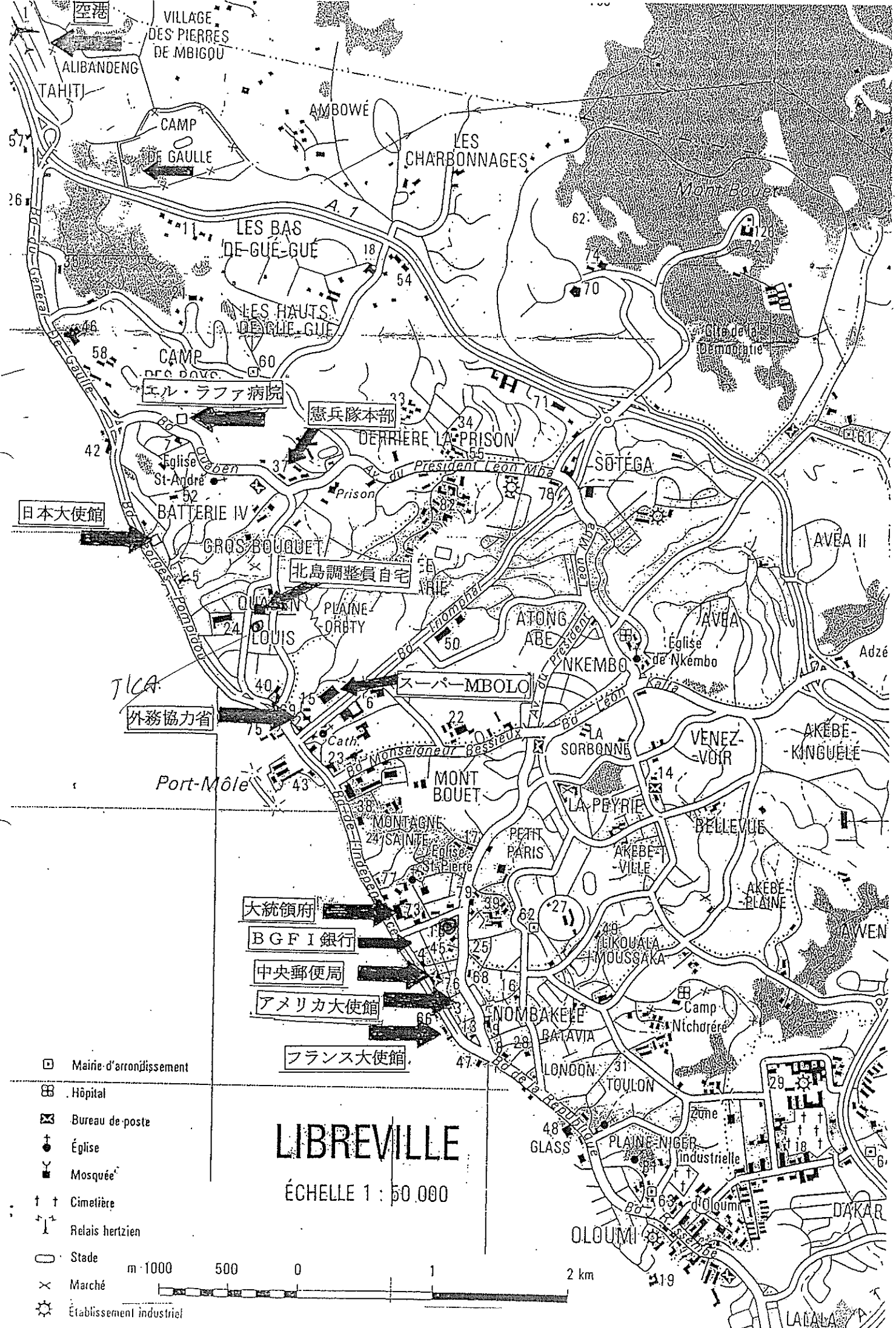
0 1000 500 0 1 2km

アクルナム

首都危険地帯図  
(平成17年3月現在)

- ◎ 昼夜危険
- 夜間危険

※ 表記された危険地帯は犯罪発生率が高い傾向にある所ですが、他の地域も決して安全とはいえません。徒歩・車輦を問わず外出の際は、目立たぬ服装や携行品に心掛けるなど、しっかりした予防措置をとり、周囲に十分注意を払いつつ行動することが大切です。



日本大使館

エル・ラファ病院

憲兵隊本部

北島調整員自宅

外務協力省

大統領府

BGFI銀行

中央郵便局

アメリカ大使館

フランス大使館

# LIBREVILLE

ÉCHELLE 1 : 50 000

- Mairie d'arrondissement
- ⊞ Hôpital
- ✉ Bureau de poste
- ✝ Église
- ☐ Mosquée
- †† Cimetière
- ⌚ Relais hertzien
- ⊖ Stade
- × Marché
- ⚙ Etablissement industriel

